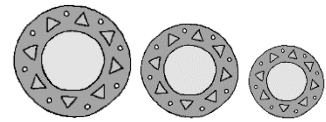
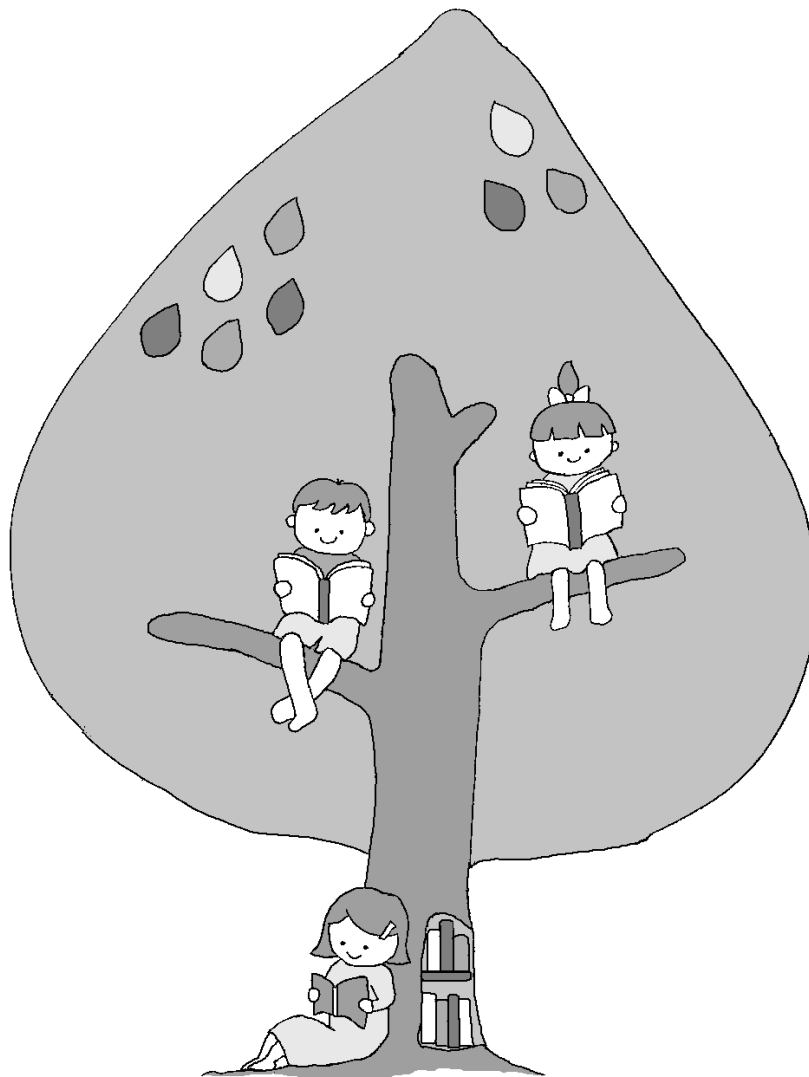




第3次もりおか子どもの読書活動推進計画



もりおか^{さっくら}幸呼来 子ども読書プラン



令和4年 月

盛岡市・盛岡市教育委員会



目 次

第1章 はじめに

1	子どもの読書活動の重要性	1
2	計画策定の趣旨	1
3	計画期間	2
4	計画の位置付け	2

第2章 第2次もりおか子どもの読書活動推進計画の検証

1	発達段階における取組の成果と課題	3
2	図書館が担う役割の成果と課題	9
3	教育振興運動における読書活動の成果と課題	11
4	第2次計画検証のまとめ	12

第3章 読書活動を取り巻く情勢

1	社会情勢の変化	13
2	国及び岩手県の計画	14
3	盛岡市における子どもの読書活動の状況	14
4	まとめ	19

第4章 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画の概要

1	計画目標	21
2	計画期間	21
3	基本方針	21
4	重点事項	21
5	成果指標の設定	23

第5章 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画における具体的取組

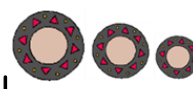
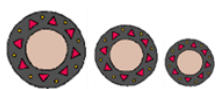
1	子どもが読書に親しむ機会の提供	24
2	子どもの読書環境の整備	29
3	家庭、地域、学校、行政の連携した取組の推進	31

第6章 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画における推進体制

1	関係課等会議における計画の進捗管理	38
---	-------------------	----

第7章 資料編

1	乳幼児に関連する情報	39
2	小学生・中学生・高校生に関連する情報	40
3	図書館等に関連する情報	44
4	子どもの読書への関心を高める取組	47



第1章 はじめに

1 子どもの読書活動の重要性

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号。以下、「法」という。）では、第2条において「子ども（おおむね18歳以下の者をいう。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることに鑑み、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」と、基本理念を掲げています。

本市においても、この法の理念を捉え、すべての子どもたちが、読書を通して様々な人とかわり、本の楽しさを感じ、知識を深め、考える力を養い、感動を「ひと」と共有し、心豊かに成長していくことを願って読書活動を推進することが重要と考えます。

2 計画策定の趣旨

法第9条第2項において、市町村に対し、国が定める「子ども読書活動推進基本計画」及び都道府県が定める「子ども読書活動推進計画」を基本とし、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における「子ども読書活動推進計画」を策定するよう、努力規定を定めています。

本市では、この法の規定に基づき、平成17年に第1次となる「盛岡市子どもの読書活動推進計画」を、平成29年3月に「第2次もりおか子どもの読書活動推進計画」（愛称「もりおか幸呼来（さっくら）子ども読書プラン」）を策定しました。第2次計画では、「自ら本に親しみ、豊かな心や生きる力が育つ盛岡の子」を目標に、発達段階に応じた取組を「家庭」「地域」「子ども」「学校」「行政」のそれぞれの立場から進めることで、子どもの読書活動を推進してきました。また、盛岡市教育振興運動5か年計画でも、第9次計画（平成18～22年度）から現在の第12次計画（令和3～7年度）に至るまで、学力向上の観点で、読書活動を重点に掲げており、子どもの読書活動の推進は、子どもの健全育成に欠くことのできないものとなっています。

この度、第2次計画が令和3年度で最終年を迎えることから、これまでの取組状況を整理し、取組の成果と課題を踏まえて、発達段階に応じた読書環境の整備とそれぞれの立場における取組を一層推進することを目指し、「第3次もりおか子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

なお、第3次計画においても、第2次計画を継承し、計画の取組を通じて、「子どもたちに幸せが訪れるように」という願いを込めて、盛岡の伝統芸能である盛岡さんさ踊りの掛け声にちなみ、愛称を「もりおか幸呼来（さっくら）子ども読書プラン」とします。

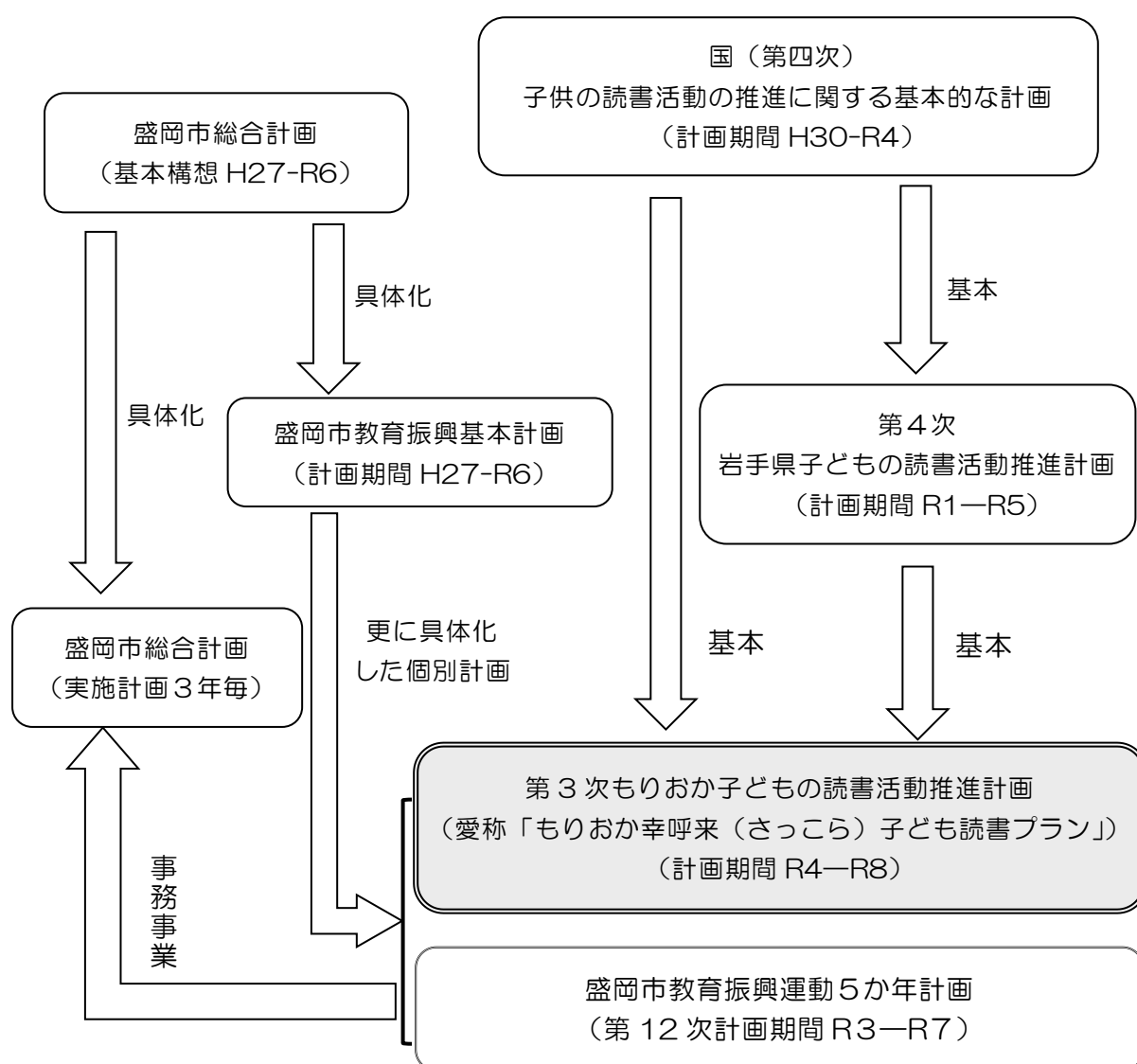
3 計画期間

令和4年度～令和8年度（5年間）

ただし、国、岩手県の計画の動向や市の読書環境の変化等を踏まえ、必要に応じて見直すこととします。

4 計画の位置付け

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づく市町村子ども読書活動推進計画として、「第2次もりおか子どもの読書活動推進計画」を引き継ぎ、盛岡市総合計画及び盛岡市教育振興基本計画のもとに位置付け、第3次計画として策定します。



第2章 第2次もりおか子どもの読書活動推進計画の検証

第2次計画においては、「家庭」「地域」「子ども」「学校」「行政」の立場における期待される役割を理解し、それぞれの発達段階における取組を行ってきました。

また、図書館が担う役割として、市立図書館、都南図書館、渋民図書館の3館のほか移動図書館車、各公民館における図書室、各学校における学校図書館での取組を行ったほか、教育振興運動における「学力向上」の目標達成のための重要な取組として読書活動の推進に努めてきました。

第3次計画を策定するにあたり、計画を効果的なものとするため、これまでの取組の成果と課題について検証します。

1 発達段階における取組の成果と課題

(1) 生まれる前から（親になる準備をする）

ア 実施事業

主体	事業	事業内容
行政	マタニティ教室等における読み聞かせリーフレットの配布	「パパママ読み聞かせリーフレット」をマタニティ教室、母親教室、母子健康手帳交付時等に配布した。

イ 成果指標

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
1	マタニティ教室やパパ・ママ教室における読み聞かせ関連情報の提供件数（件）	0	1,500	2,000	2,000	2,000 達成	600

【成果と課題】

- ・ 出産を迎えるまでの母子の心の安定を図るとともに、生まれてからの読み聞かせにつなげることを目的とし、読み聞かせの大切さや意義等をまとめたリーフレットを作成し、意識啓発を行いました。
- ・ 第2次計画の新規事業であり、令和3年度目標値 600 件に対し、母子健康手帳交付時の情報提供機会を増やしたことから、令和2年度時点で 2,000 件となり目標を達成しました。子どもの成長の第一歩となる家庭教育の重要性に鑑み、時機を逸せず読み聞かせに関する情報を提供することができました。今後も引き続き、創意工夫した取組が必要と考えます。

(2) 乳幼児（本との出会い・楽しいお話の世界を楽しむ）

ア 実施事業

主体	事業	事業内容
地域	地域文庫*1等における読書活動	読み聞かせやわらべ歌、ストーリーテリング等を実施した。
保育所等	保育所等での読書活動の推進	絵本の読み聞かせ、絵本コーナーの設置、園だより等で啓発した。
行政	離乳食教室（4か月児）でのリーフレットの配布	図書館等で開催する読み聞かせ関連事業を掲載した「読み聞かせ事業リーフレット」を配布した。
	新生児訪問時のリーフレット配布	新生児訪問時に読み聞かせ啓発リーフレットを配布した。
	絵本の読み聞かせ事業	1歳6か月児健診時に、読み聞かせボランティア*2による読み聞かせ、手遊び等を実施した。また、絵本読本「絵本だあいすき！」を配布した。
	おはなし会等事業	図書館等で読み聞かせ、ストーリーテリング、わらべうた等を実施した。
	読書ボランティア*3研修会	ボランティアの養成及びスキルアップのための研修を実施した。
	読書ボランティアデータベースの作成	読書ボランティア団体のデータベースを作成し、庁内での共有を図るとともに、市HPに掲載し、市民からの問い合わせに対応した。

*1 地域文庫：地域の町内会・自治会や読書活動グループなどが組織的に設置し運営する文庫などの総称（うれし野子ども図書室、うすゆきそう文庫等）

*2 読み聞かせボランティア：市保健所主催の「1歳6か月児健診」における読み聞かせを行うボランティア

*3 読書ボランティア：図書館、公民館、学校等において、読書にかかわる活動を行うボランティアの総称

イ 成果指標

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
2	1歳6か月児健診における「読み聞かせボランティア」登録者数（人）	43	36	32	31	32 未達成	45

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
3	1歳6か月児健診受診率（読み聞かせ事業参加率）（％）	98.4	99.3	97.5	96.7	— 未実施	99.0

【成果と課題】

- ・ 各保育所における読み聞かせの実施と絵本コーナーの設置により、乳幼児期における絵本や物語などに出会う機会の提供が行われました。
- ・ 離乳食教室や新生児訪問時、1歳6か月児健診時などの様々な機会に合わせて、読み聞かせに関する啓発を行ったほか、図書館や図書室のある公民館、地域文庫で読み聞かせを実施し、読書への興味や習慣化を図りました。
- ・ 1歳6か月児健診時に実施した「絵本の読み聞かせ」に関するアンケートでは、「色々な絵本を読み聞かせしてあげたいと思う」、「絵本の読み聞かせについて家でもちゃんとやってみようと思う」などの回答があり、家庭への啓発が図られました。
- ・ 成果指標に関して、平成30年度以降、1歳6か月児健診受診率（読み聞かせ事業の参加率）が減少したことから、目標値未達成となりました。読み聞かせ情報の提供状況や健診受診状況の把握ができるメリットはあるものの、健診受診者数により数字が確定するため、読書活動推進計画の進捗状況を把握する指標としては適さない面があることから、指標の見直しが必要と考えられます。
- ・ 読書ボランティア研修会及び読書ボランティアデータベースの作成を行い、読み聞かせボランティア及び読書ボランティアの養成、活動の周知を行いました。しかしながら、活動するボランティアの固定化、高齢化が進み、成果指標である1歳6か月児健診における「読み聞かせボランティア」登録者数について、令和2年度実績値で32人と平成29年度に比較して、ボランティアが減少する結果となりました。
- ・ 読書ボランティアは、図書館や公民館等と連携しながら、子どもの読書活動の推進に関する理解や関心を深めたり、子どもが読書に親しむ機会を提供するなど大きな役割を果たしています。今後も、新規に活動に参加する人が増えるような方策及び若い世代への一層の啓発活動が必要と考えます。

(3) 小学生（読書習慣の形成や定着・言語活動の充実）

ア 実施事業

主体	事業	事業内容
地域	地域文庫等における読書活動（再掲）	読み聞かせやわらべ歌、ストーリーテリング等を実施した。
学校	朝読書の実施	朝の決まった時間に読書をするによって、読書習慣の定着を図った。
	学校図書ボランティアとの連携	学校図書ボランティアと連携し、読書活動の充実を図った。
行政	学校図書ボランティア研修	学校図書ボランティアとして活動している人を対象に、読み聞かせ活動や図書の修繕に関する研修会を実施した。
	学校司書配置	学校司書を配置し、学校図書館の整備を行った。
	先人教育関連「一筆啓上」	「盛岡の先人教育」の一環として、「盛岡の先人」に関わる親子読書、感想交流を行った。
	おはなし会等事業（再掲）	図書館等で読み聞かせ、ストーリーテリング、わらべうた等を実施した。

イ 成果指標

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
4	市内児童の1か月の平均読書冊数 （小学5年生）（冊）	14.6	16.4	15.6	17.1	17.6 達成	16

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
5	県及び市内児童・生徒の1か 月で1冊も本を読まなかつ た児童の割合（小学5年生） （％）	0.1	0.9	0.9	2.6	0.1 達成	0.1

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
6	学校図書ボランティア活動 がある学校の割合（小学校） （％）	89	—	93	—	91 達成	90

【成果と課題】

- ・ 地域文庫における読み聞かせや季節に合わせたお話会の実施により、読書への興味や習慣化に取り組みました。
- ・ 学校では朝読書や先人教育に関連した「一筆啓上」事業、読書週間や読書月間の取組を行ったほか、学校図書ボランティアとの連携など学校ぐるみの取組を実施し、読書への興味や習慣化を図りました。
- ・ 成果指標である市内児童の1か月の平均読書冊数については、令和3年度目標値16冊に対して、令和2年度時点で17.6冊と目標を達成しているとともに、県及び市内児童・生徒の1か月で1冊も本を読まなかった児童の割合について令和3年度目標値0.1%に対して、令和2年度時点で0.1%と目標値が達成されたと考えられます。
- ・ 今後は、小学生で読書習慣の定着が図られるよう、引き続き創意工夫した取組が必要と考えます。

(4) 中学生・高校生

(読書活動の充実・読書から思考を深め、自分の考えを表現する言語活動の充実)

ア 実施事業

主体	事業	事業内容
地域	地域文庫等における読書活動(再掲)	読み聞かせやわらべ歌、ストーリーテリング等を実施した。
学校	朝読書の実施(再掲)	朝の決まった時間に読書をすることによって、読書習慣の定着を図った。
	学校図書ボランティアとの連携(再掲)	学校図書ボランティアとして活動している人を対象に、読み聞かせ活動や図書の修繕に関する研修会を実施した。
行政	学校図書ボランティア研修(再掲)	学校図書ボランティアとして活動している人を対象に研修会を実施した。
	学校司書配置(再掲)	学校司書を配置し、学校図書館の整備を行った。
	先人教育関連「一筆啓上」(再掲)	「盛岡の先人教育」の一環として、「盛岡の先人」に関わる親子読書、感想交流を行った。

イ 成果指標

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
7	市内生徒の1か月の平均読書冊数(中学2年生)(冊)	3.2	4.3	3.9	4.8	4.9 達成	4

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
8	県及び市内児童・生徒の1か月で1冊も本を読まなかった生徒の割合（中学2年生）（％）	12.9	7.0	5.7	4.0	2.8 達成	7.9

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
9	学校図書ボランティア活動がある学校の割合（中学校）（％）	40	—	50	—	58 達成	50

【成果と課題】

- ・ 地域文庫における読み聞かせや季節に合わせたお話会の実施により、読書への興味や習慣化に取り組みました。
- ・ 中学校では、朝読書や先人教育に関連した「一筆啓上」事業、読書週間や読書月間の取組を行ったほか、学校図書ボランティアとの連携など学校ぐるみの取組を実施し、読書への興味や習慣化を図りました。
- ・ 成果指標である市内生徒の1か月の平均読書冊数については、令和3年度目標値4冊に対して、令和2年度時点で4.9冊と目標達成しているとともに、県及び市内児童・生徒の1か月で1冊も本を読まなかった生徒の割合について令和3年度目標値7.9％に対して、令和2年度時点で2.8％と目標値が達成されたと考えられます。
- ・ 今後は、中学生で読書習慣の定着が図られるよう、創意工夫した取組が必要と考えられます。
- ・ 県内の高校生における1か月の平均読書冊数は、令和元年度時点で全国1.4冊に対して県内2.4冊と高く、また、不読率は全国55.3％に対して県内15.6％と全国と比較しても良好な傾向にありますが、小中学生と比較すると、不読率が高く、概ね5人に1人は1か月に1冊も本を読んでいない実態があることから、年齢が上がっても、切れ目のない取組を一層進めることが必要と考えられます。

2 図書館が担う役割の成果と課題

ア 実施事業

主体	事業	事業内容
図書館	読書ボランティア研修会（再掲）	ボランティアの養成及びスキルアップのための研修を実施した。
	おはなし会等事業（再掲）	図書館等で読み聞かせ，ストーリーテリング，わらべうた等を実施した。
	読書ボランティアとの連携	図書館で活動している読書ボランティア団体と連携し，おはなし会等を実施した。
	読書ボランティアデータベースの作成（再掲）	読書ボランティア団体のデータベースを作成し，庁内での共有を図るとともに，市HPに掲載し，市民からの問い合わせに対応した。
	図書資料の整備・充実	中学生や高校生に向けたヤングアダルトコーナーの充実など，利用したくなるような図書館づくりを目指し，計画的に選書・購入を行った。

イ 成果指標

No.	成果指標	計画 基準値	実績値				R3 目標値
			H29	H30	R1	R2	
10	貸出冊数 （図書館） 一般図書（冊）	392,586	341,776	324,942	323,950	310,313 未達成	393,000
	貸出冊数 （図書館） 児童図書（冊）	281,282	244,448	245,012	244,881	220,062 未達成	282,000

No.	成果指標		計画 基準値	実績値				R3 目標値
				H29	H30	R1	R2	
11	おはなし会などの 事業実施 （図書館）	件	212	238	219	197	96 未達成	230
		人	4,593	4,670	4,249	3,573	1,340 未達成	4,600
12	おはなし会などの 事業実施（公民館）	件	86	104	63	55	61 未達成	100
		人	1,714	1,938	1,345	1,312	1,325 未達成	1,800

（中央公民館は，H30～R1年度の2年間，改修による休館のため実績なし。）

No.	成果指標		計画 基準値	実績値				R 3 目標値
				H29	H30	R 1	R 2	
13	施設を拠点とした 読書ボランティア (図書館)	団体	6	7	7	7	7 達成	6
		人	93	78	76	74	70 未達成	100
14	施設を拠点とした 読書ボランティア (公民館)	団体	3	3	2	1	3 達成	3
		人	20	17	14	13	29 達成	25

(中央公民館は、H30～R1年度の2年間、改修による休館のため実績なし。)

【成果と課題】

- ・ 成果指標の公立図書館における貸出冊数について、一般図書、児童図書ともに平成 29 年度に比較し令和 2 年度時点で減少しており、その要因の一つとして電子書籍の普及などが考えられますが、様々な要因を分析し、来館を促すための動機付けとなる事業の検討が必要であると考えられます。
- ・ 読書ボランティア研修会及び読書ボランティアデータベースの作成を行い、読書ボランティア等の養成、活動の周知を行いました。しかしながら、活動するボランティアの固定化、高齢化が進み、成果指標である施設を拠点とした読書ボランティアについて、令和 3 年度目標値に対して、図書館で活動するボランティア人数が平成 29 年度に比較して減少する結果となりました。
- ・ 読書ボランティアは、図書館や公民館等と連携しながら、子どもの読書活動の推進に関する理解や関心を深めたり、子どもが読書に親しむ機会を提供するなど大きな役割を果たしています。今後も、新規に活動に参加する人が増えるような方策及び一層の啓発活動が必要と考えます。
- ・ 令和元、令和 2 年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での活動を実施できなかったことで、おはなし会などの事業件数、参加人数が減少しましたが、今後は、新しい生活様式に沿った図書館事業の在り方について、検討が必要と考えられます。

3 教育振興運動における読書活動の成果と課題

ア 実施事業

主体	事業	事業内容
地域	地域文庫等における読書活動（再掲）	読み聞かせやわらべ歌，ストーリーテリング等を地域文庫が実施した。
学校	朝読書の実施（再掲）	朝の決まった時間に読書をするによって，読書習慣の定着を図った。
	学校図書ボランティアとの連携（再掲）	学校図書ボランティアと連携し，学校図書の充実を図った。
行政	読書ボランティア研修会（再掲）	ボランティアの養成及びスキルアップのための研修を実施した。
	おはなし会等事業（再掲）	図書館等で読み聞かせ，ストーリーテリング，わらべうた等を実施した。
	図書資料の整備・充実（再掲）	利用したくなるような図書館づくりをめざし，計画的に選書・購入を行った。
	読書ボランティアとの連携（再掲）	図書館や公民館等で活動している読書ボランティア団体と連携し，おはなし会等を実施した。
	読書ボランティアデータベースの作成（再掲）	読書ボランティア団体のデータベースを作成し，庁内での共有を図るとともに，市HPに掲載し，市民からの問い合わせに対応した。

【成果と課題】

- ・ 教育振興運動においては，第9次計画（平成18～22年度）から，子どもの読書活動の推進を重点として掲げて読書活動に取り組みました。
- ・ 学校では，学校図書ボランティアとの連携により，子どもたちの興味・関心に合わせて本を選定して読み聞かせを行うなど，読書活動の充実を図ったほか，図書室整備により，子どもたちの読書意欲を高めることができました。
- ・ 学校では，読書目標冊数の設定や必読図書リストの提示，読書週間・月間の設定，家庭での親子読書日の設定を行うなど，読書への意欲付けを行いました。
- ・ 今後も子どもを中心に据えて，家庭，地域，学校，行政が連携して子どもの読書活動を進める必要があります。

4 第2次計画検証のまとめ

成果指標 14 項目中、R 2 年度中に目標値を達成した指標は、7 項目、未達成の項目は、7 項目でした。

(1) 成果

- ・ 生まれる前から乳幼児の段階では、リーフレットを配布するなど、保護者への意識啓発、子どもへの読み聞かせを実施しました。また、小学生から中学、高校生までは、学校、地域、図書館を通じて本に触れる機会を作り、本に親しみ、読書習慣の定着化を進めるとともに、学校図書館の環境整備を行い、成果指標に定める「1 か月の平均読書冊数」の増加、「1 か月で1 冊も本を読まなかった割合（不読率）」の減少につながりました。

このように、それぞれの発達段階に応じた取組の推進と、図書館や公民館等関係機関の連携協力により、一定の成果を収めることができました。

- ・ 「読書活動の充実」を第 11 次教育振興運動の重点項目の 1 つとして、家庭、地域、学校が連携して取り組み、学校図書ボランティアによる読書推進など、子どもの読書活動の環境を整備することで、読書時間を増やすことができました。

(2) 課題

- ・ 成果指標である平均読書冊数、不読率に関する目標を達成した一方、年齢が上がるにつれて、平均読書冊数が少なくなり、不読率が上昇している実態があることから、子どもの年齢、進学によっても切れ目のない取組を一層進めることが必要と考えられます。また、小学生から中学、高校生までに培われた読書習慣の定着が図られるよう、創意工夫した取組が必要と考えます。
- ・ 読書ボランティア等が減少傾向にあります。読書ボランティアは、図書館や公民館等と連携しながら、子どもの読書活動の推進に関する理解や関心を深めたり、子どもが読書に親しむ機会を提供するなど大きな役割を果たしており、今後も行政、地域が連携して継続的に支える環境を整えることが課題となります。
- ・ 子どもが読書に親しむ多様な機会を提供する図書館等について、図書の貸出冊数、図書館や公民館で行う事業の件数とその参加者が減少しています。その要因を分析し、適切な手立てを検討する必要があります。

第3章 読書活動を取り巻く情勢

1 社会情勢の変化

(1) 学校図書館法の改正

平成26年に学校図書館法の一部が改正され、専ら学校図書館の職務に従事する職員として学校司書の法制化がなされるとともに、学校司書への研修等の実施が規定されました。これを受けて、文部科学省において、「学校図書館ガイドライン」及び「学校司書のモデルカリキュラム」が作成され、学校図書館の整備充実が図られました。

盛岡市においても、学校司書の配置を行うとともに、学校司書の知識・技能など資質の向上を図るための研修の充実に努め、子どもたちがより一層、学校図書館を活用できるよう、学校図書館の充実に努めています。

(2) 学習指導要領の改訂

令和2年4月からは小学校で、令和3年4月からは中学校で改訂された学習指導要領が全面実施となり、「各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、児童生徒の言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の自主的、自発的な読書活動を充実すること、また、地域の図書館等の施設の活用を積極的に図ること」となりました。

(3) 情報通信手段の普及・多様化

令和2年度岩手県小・中学校学習定着状況調査によると、平日に2時間以上、携帯電話やスマートフォンを利用する割合が小学5年生で36.0%、中学2年生で46.0%となっています。特に小学5年生は令和元年度の10.0%から大幅に増加しており、情報通信手段が広く普及し、ソーシャルネットワーキングサービスがより身近になったことにより、子どもたちを取り巻く読書環境にも影響を与えている可能性があります。今後も、あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になり、紙媒体に代わり、情報通信技術(ICT)を利用する時間は増加傾向にあると考えます。

(4) 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画

令和元年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」が成立し、令和2年度から令和6年度までを対象とする「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」が国で策定され、基本方針として、「アクセシブルな電子書籍等の普及、及びアクセシブルな書籍の継続的な提供」「アクセシブルな書籍等の量的拡充・質の向上」「視覚障害者等の障害の種類・程度に応じた配慮」が示されました。

2 国及び岩手県の計画

(1) 国の第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画

平成 30 年 4 月に策定された国の第 4 次計画では、小学生と中学生の不読率は中長期的に改善傾向にあります。しかし、高校生の不読率は依然として高く、また、いずれの世代でも第 3 次計画で定めた進度での改善が図られていないことから、第 3 次計画から引き続き、不読率について、小学生 2%以下、中学生 8%以下、高校生 26%以下とすることを目指しています。

取組の方向性として、「発達段階ごとの効果的な取組の推進」、「友人同士で本を薦め合うなど読書への関心を高める取組の充実」、「情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握と分析」などが盛り込まれています。

推進体制として、市町村の役割は、教育委員会と福祉部局等の連携に加えて、学校、図書館、民間団体、民間企業の連携、協力によって横断的な取組が実施できるような体制を整備すること、とされています。

(2) 岩手県の計画（第 4 次岩手県子どもの読書活動推進計画）

平成 31 年 3 月に作成された岩手県の第 4 次計画では、子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、基本的な考え方を「子どもが本に親しむ環境づくり」「家庭、地域、学校等が連携協力した取組の推進」「子どもの読書への関心を高める取組の推進」とし、子どもの発達段階に応じた取組の推進及び、子どもの読書への関心を高める取組の推進に重点を置くこととしています。

市町村には、身近な情報や啓発資料の提供、ブックトークやビブリオバトル等の子どもの読書への関心を高める取組、市町村立図書館における児童サービスの充実、ボランティア団体等の把握と連携促進などが求められています。

3 盛岡市における子どもの読書活動の状況

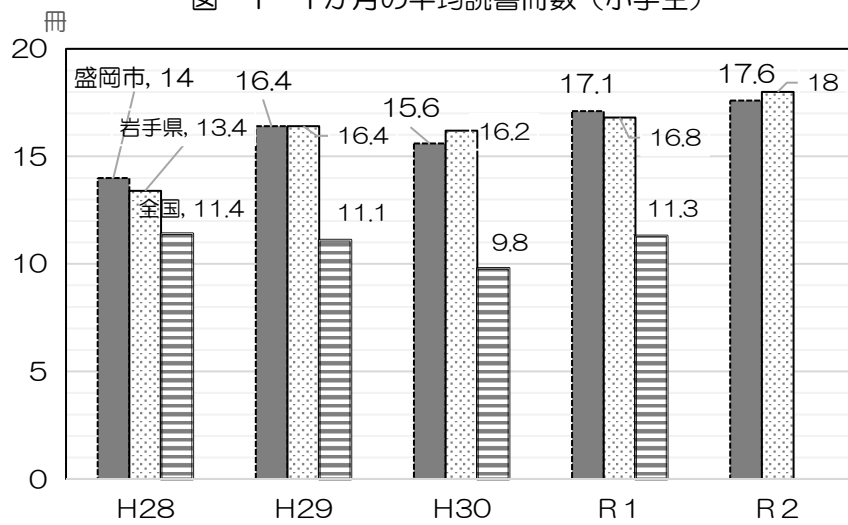
(1) 読書冊数と不読率*の推移（P15～17 の図・表参照）

盛岡市における月平均の読書冊数について、図－1 のとおり、小学生は、概ね増加し、岩手県の平均と同レベルとなっており、全国平均を大きく上回っています。また、中学生は、図－2 のとおり、概ね増加していますが、岩手県、全国平均を下回る傾向にあります。高校生（岩手県全県、以下同様）は、図－3 のとおり、ほぼ横ばいに推移しており、全国平均を上回っています。

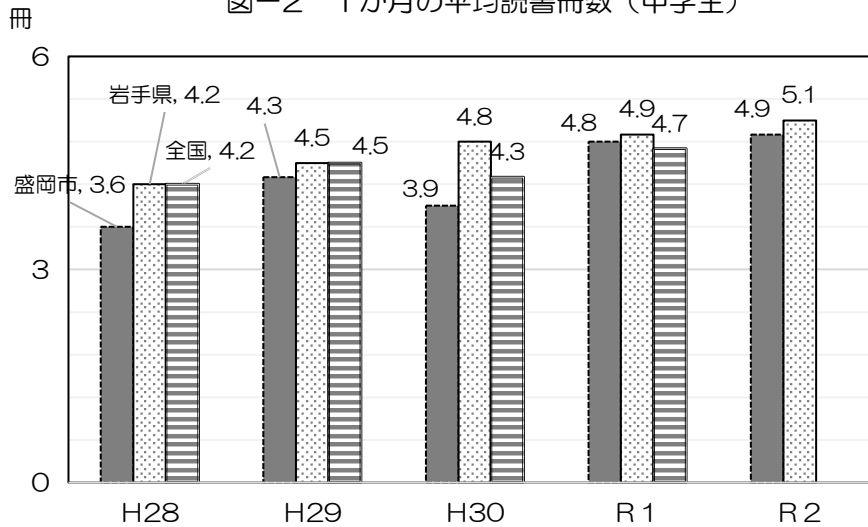
不読率については、図－4 のとおり、小学生は、年度により増減はありますが、横ばいとなっており、概ね岩手県平均と同レベルで、全国平均を大幅に下回っています。中学生は、図－5 のとおり、年々、減少傾向にあります。令和 2 年度以外は、県平均を上回っています。全国平均との比較では、小学生と同様、大幅に下回っています。高校生については、図－6 のとおり、年度により変動がありますが、全国平均を大幅に下回っています。

*不読率：1 か月間に読んだ本が 0 冊と回答した児童・生徒の割合

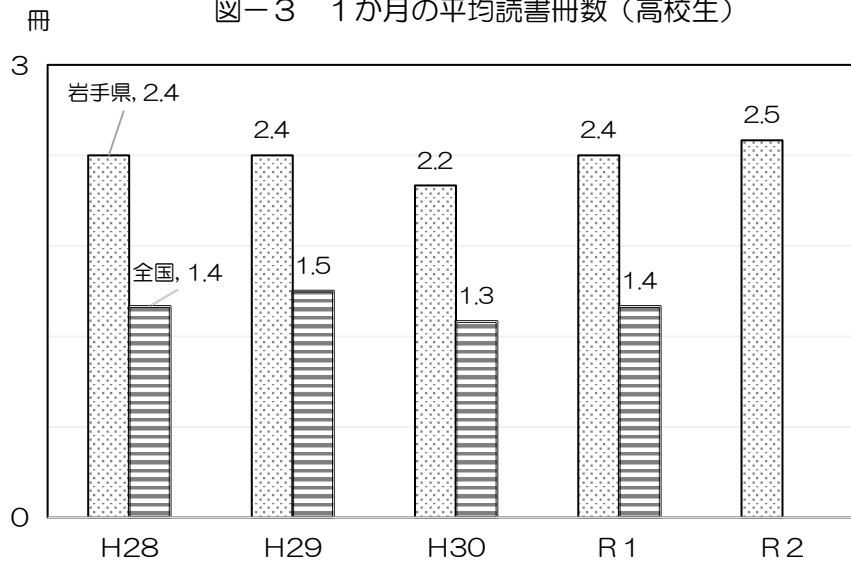
図ー1 1か月の平均読書冊数（小学生）

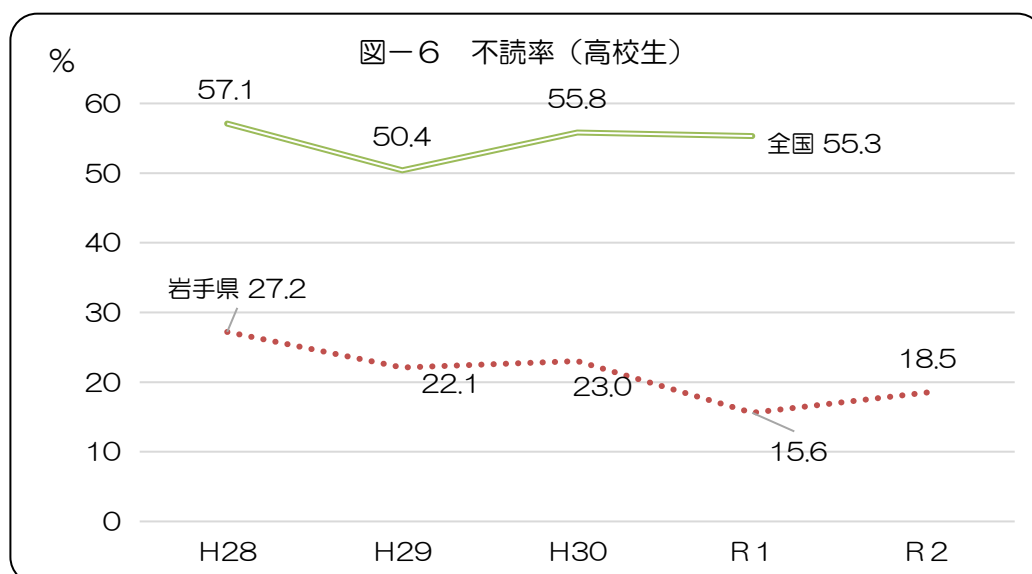
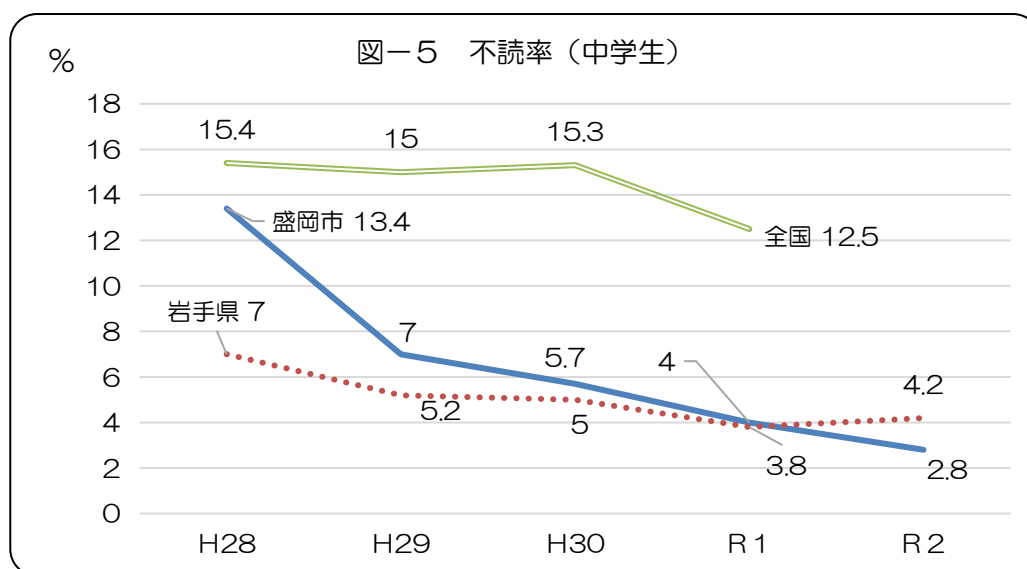
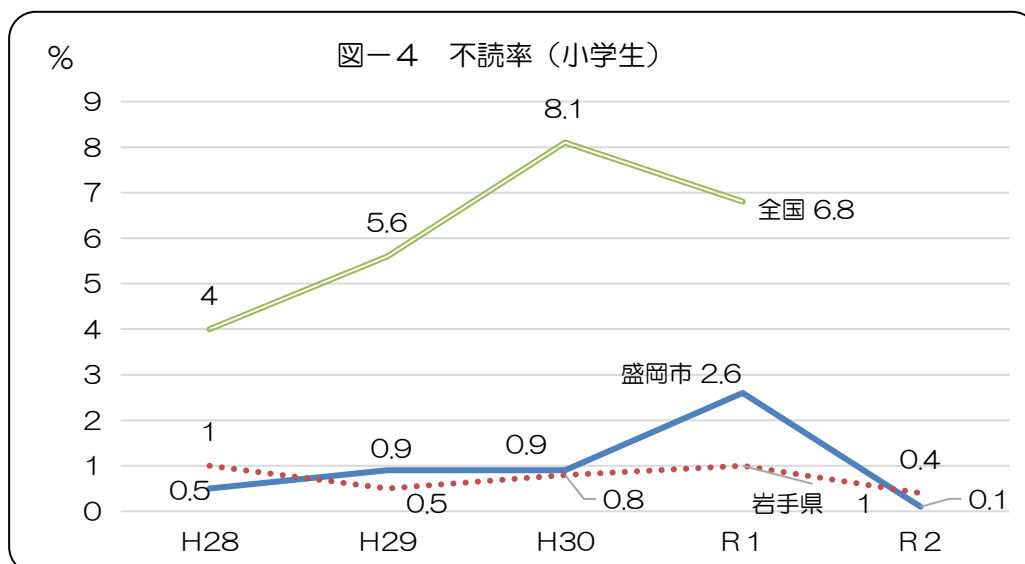


図ー2 1か月の平均読書冊数（中学生）



図ー3 1か月の平均読書冊数（高校生）





参考資料 1 盛岡市・岩手県：「岩手県子どもの読書状況調査」
 2 全国：(公)全国学校図書館協議会「学校読書調査」(R2年度は実施なし)

(2) 読書に対する意識（令和２年度「岩手県子どもの読書状況調査」から）

令和２年度「岩手県子どもの読書状況調査」による盛岡市の状況として、下記表１のとおり「読書をすることを楽しいと思いますか」の問いに、小学生の 90.1%，中学生の 83.9%，高校生の 85.0%が「とても楽しい」又は「どちらかという楽しい」と答えています。

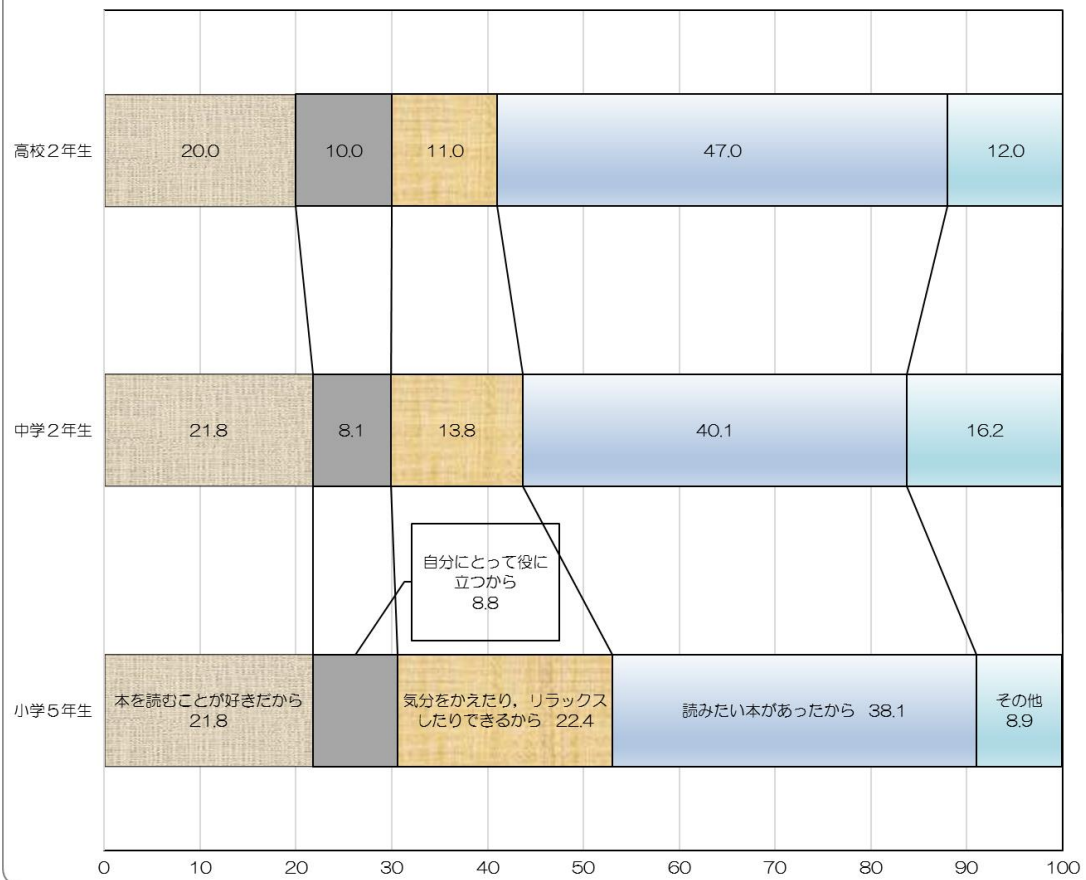
また、「本を読んだ理由」として、図－７のとおり、「読みたい本があったから（人からのすすめ、話題や人気の本、好きな作家やシリーズの本があったから）」と回答した小学生が 38.1%，中学生が 40.1%，高校生 47.0%と最も多く、「気分をかえたり，リラックスしたりできるから」「本を読むことが好きだから」という回答が続いています。

さらに、平成 30 年度「岩手県子どもの読書状況調査」によると、図－８のとおり、1 か月に 1 冊も本を読まなかった理由として、小学生は、77.8%が「読みたい本が見当たらない」，11.1%が「勉強が忙しい」「読まなくても不便はない」と回答しており、中学生は、36.1%が「スポーツ少年団・部活動が忙しい」，25.0%が「読みたい本が見当たらない」，22.2%が「読まなくても不便はない」と回答しています。高校生は、28.0%が「読みたい本が見当たらない」，24.0%が「スポーツ少年団・部活動が忙しい」と回答しています。

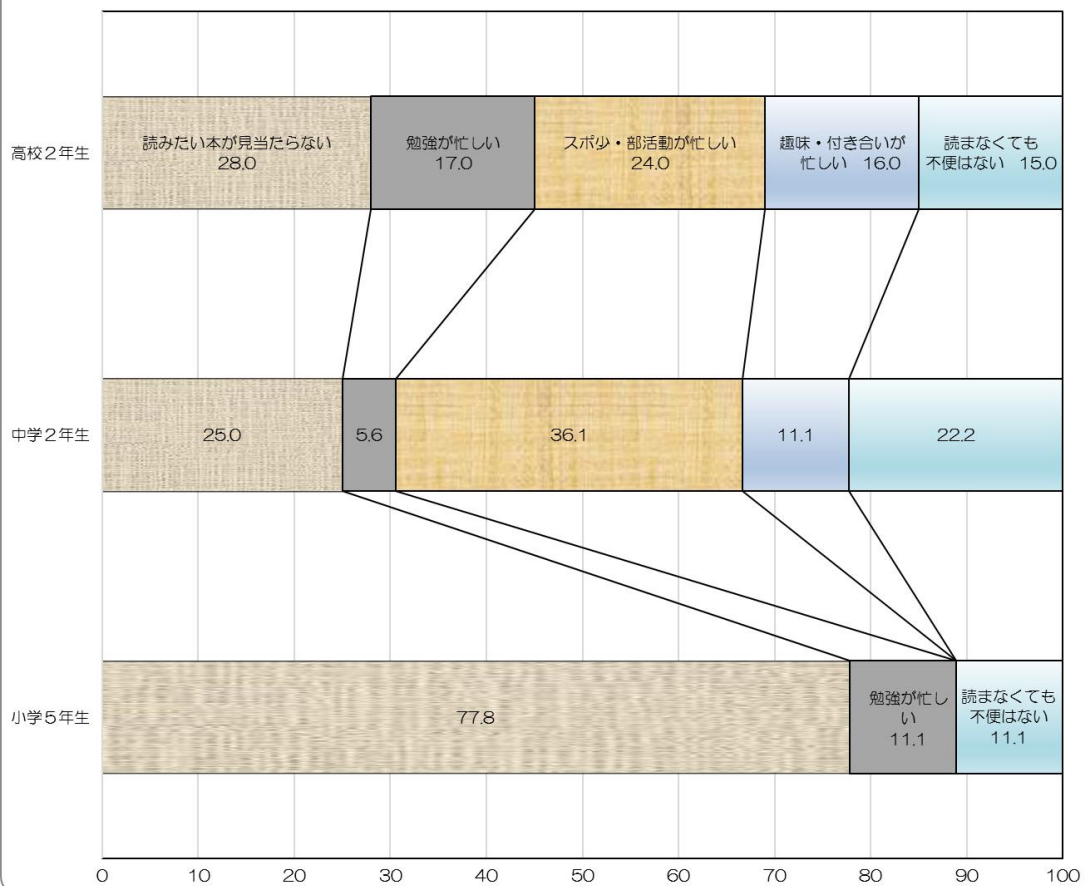
表－１ 読書に対する意識ごとの割合（％）

R2		とても楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	まったく楽しく ない
小学５年生	盛岡	45.5	44.6	6.9	3.0
	県	46.0	43.0	8.0	3.0
中学２年生	盛岡	40.1	43.8	10.7	5.4
	県	40.0	44.0	11.0	5.0
高校２年生	県	39.0	46.0	11.0	4.0

図－7 本を読んだ理由（％）



図－8 1か月で1冊も本を読まなかった児童・生徒が、本を読まなかった理由（％）



4 まとめ

(1) 社会情勢を捉えた取組の推進

スマートフォンの普及や、SNS等のコミュニケーションツールの多様化など、子どもを取り巻く情報環境が大きな変化を見せるなど、社会情勢の変化とともに、子どもの読書環境にも大きな影響を与えている可能性があることを踏まえ、国及び県の計画に示す取組の方向性を見据えながら、市における子どもの読書活動の状況を整理し、今後の取組を推進していくことが必要となっています。

(2) 盛岡市の子どもの読書活動における課題

平成 28 年度から令和 2 年度までに小・中・高校生の平均読書冊数は概ね増加し、不読率については、小学生、高校生は横ばい、中学生は減少傾向にあることから、盛岡の児童、生徒は読書に親しんでいると考えられます。

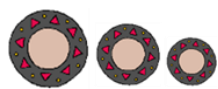
その一方、小学 5 年生では平均読書冊数が 17.6 冊でしたが、中学 2 年生では、4.9 冊、高校 2 年生（岩手県）では、2.5 冊と大幅に読書冊数が減少しており、年齢が上がると、読書量が減っていることが課題です。

また、月平均の読書冊数について、小学生は、岩手県の平均と同レベルとなっており、全国平均を大きく上回っているのに対し、中学生においては、概ね増加していますが、岩手県、全国平均を下回る傾向にあることが課題です。

平成 30 年度に調査した本を読まなかった理由について、多くの児童・生徒が「読みたい本が見当たらない」「読まなくても不便はない」と回答していることから、本を読まなかった児童及び生徒が読みたい本を発見できるような環境を整えることも課題となっています。

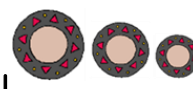
中高生の読書離れが言われる中、スポーツ少年団・部活動の忙しさがその要因の一つではあると考えられますが、本当に読みたいと思える本と出会うことが必要であるとも考えられます。周囲からの勧めや中高生向けの選書の工夫が求められます。

第4章 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画の概要



第3次もりおか子どもの読書活動推進計画

「もりおか^{さっころ}幸呼来 子ども読書プラン」



計画目標：自ら本に親しみ、豊かな心や生きる力が育つ盛岡の子

～すべての子どもたちが、読書を通して様々な人とかわり、本の楽しさを感じ、知識を深め、
考える力を養い、感動を「ひと」と共有し、心豊かに成長していくことを願って～

計画期間 令和4年度～令和8年度（5年間）

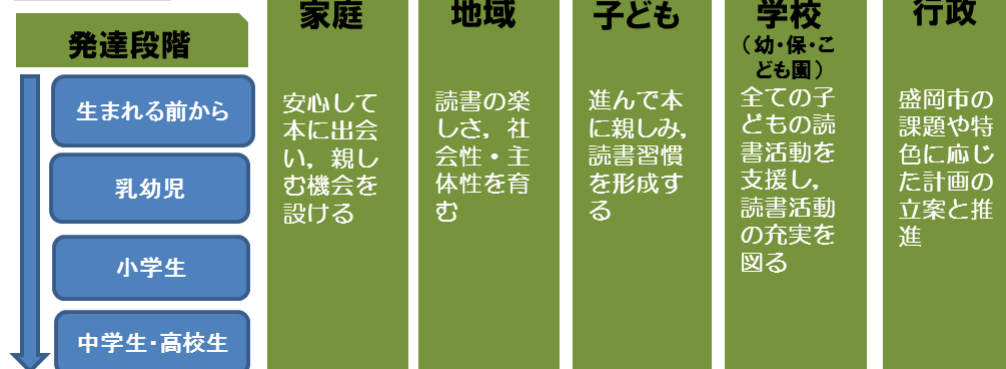
基本方針

- 1 子どもが読書に親しむ機会を提供します。
- 2 子どもの読書を支える環境を整備します。
- 3 家庭、地域、学校、行政の連携した取組を推進します。
(盛岡市教育振興運動における読書活動の推進)

重点事項

- 1 発達段階に応じた切れ目のない取組の推進
 - (1) 生まれる前
 - (2) 乳幼児
 - (3) 小学生
 - (4) 中学生・高校生
- 2 地域ぐるみで読書への関心を高める取組の推進

体系図



1 計画目標

「自ら本に親しみ、豊かな心や生きる力が育つ盛岡の子」

～すべての子どもたちが、読書を通して様々な人とかわり、本の楽しさを感じ、知識を深め、
考える力を養い、感動を「ひと」と共有し、心豊かに成長していくことを願って～

2 計画期間

令和4年度～令和8年度（5年間）

3 基本方針

(1) 子どもが読書に親しむ機会を提供します。

年齢、進学によっても切れ目なく、発達段階に応じて子どもが自ら本に親しみ、読書の楽しさや大切さを知り、読書習慣を身につけることができる様々な機会を提供します。

(2) 子どもの読書を支える環境を整備します。

子どもの読書活動を推進するためには、本に親しむ機会を提供するための支える環境が必要です。このことから、公立図書館及び学校図書館の充実を図るほか読み聞かせを行うボランティアを育成するなど、読書を支える環境を整備します。

また、障がいの有無にかかわらず、全ての人が読書することができる環境づくりに取り組むこととします。

(3) 家庭、地域、学校、行政の連携した取組を推進します。（盛岡市教育振興運動における読書活動の推進）

子どもが、生涯を通じた読書習慣を身につけられるよう、地域や学校、図書館・公民館等が連携し、それぞれの立場から、子どもが自然に本を手に取りやすい環境を整備し、読書に親しめるような取組を進めます。

その際には、盛岡市教育振興運動（第12次5か年計画（令和3年度～7年度））において、読書活動を運動の重点としていることから、連動した取組を実施し、効果的に読書活動を推進します。

4 重点事項

「発達段階に応じた読書習慣の形成」と「読書への関心を継続する手立て」が必要であると考え、次のとおり重点を定めて取組を推進します。

(1) 発達段階に応じた切れ目のない取組の推進

子どもが生まれる前の時期を含め、乳幼児期からの読書活動が重要であることを踏まえ、家庭への啓発などにより、早くから読書習慣を形成できる取組を行い、さらに小学生から高校生まで、次のそれぞれの発達段階に応じて、読書への興味、面白さを発見し、自ら積極的に本を手に取り、選ぶことができる、読書習慣の形成を目指した取組を行います。

ア 生まれる前
イ 乳幼児
ウ 小学生
エ 中学生・高校生

(2) 地域ぐるみで読書への関心を高める取組の推進

早くから読書に親しむきっかけをつくったり、読書習慣を形成したりする取組とともに、年齢が上がるにつれて、勉強や部活動、メディアを利用する時間が放課後の時間の多くを占めていることから、読書習慣の継続を図るために家庭、地域、学校、行政が連携し、いつでも、どこでも、だれもが本が身近に感じられる環境の整備に取り組めます。

特に、高校生は、友人等同世代の者から受ける影響が大きい傾向があることから、友人同士で読んだ本について話し合ったり、気に入った本を紹介したりするような取組の充実を図ります。

5 成果指標の設定

基本方針及び重点事項に沿った取組を進め、計画の進捗状況を把握するため、成果指標を設定します。

計画期間の最終年度となる令和8年度における目標値の設定については、第2次計画の目標設定に係る平成28年度から令和2年度における過去5年平均値と増減をもとに設定するほか、指標 No. 14 以降の事業実施件数など、継続が必要な項目については、第2次計画の目標値を継続設定するものとします。

第3次計画の成果指標

No.	指標の名称		対象	基準値 (R2年度)	目標値 (R8年度)
新 1	1歳6か月児の家庭での読み聞かせ実施率（週1回以上実施している割合）（％）		乳幼児	86.5	93.0
新 2	読書をするのが楽しいと思う児童の割合（％）		小学校5年	90.1	90.3
3	市内児童の1か月の平均読書冊数（冊）			17.6	18.0
4	県及び市内児童の1か月で1冊も本を読まなかった児童の割合（不読率）（％）			0.1	0.1
5	学校図書ボランティア（PTA含む）活動がある学校等の割合（小学校）（％）		小学校	91.0	100.0
新 6	読書をするのが楽しいと思う生徒の割合（％）		中学校2年	83.9	85.0
7	市内生徒の1か月の平均読書冊数（冊）			4.9	5.6
8	県及び市内生徒の1か月で1冊も本を読まなかった生徒の割合（不読率）（％）			2.8	2.8
9	学校図書ボランティア（PTA含む）活動がある学校等の割合（中学校）（％）		中学校	58.0	100.0
新 10	読書をするのが楽しいと思う生徒の割合（％）		高校2年 （県）	85.0	86.0
新 11	市内生徒の1か月の平均読書冊数（冊）			2.5	2.5
新 12	県内生徒の1か月で1冊も本を読まなかった生徒の割合（不読率）（％）			18.5	12.6
新 13	児童生徒一人当たりの貸出冊数 （貸出された児童図書の冊数÷市内の児童生徒数）※中学生以下		図書館	5.9	6.3
14	お話し会などの事業実施	（件）	図書館	96	230
15		（人）		1,340	4,600
16		（件）	公民館	61	100
17		（人）		1,325	1,800
18	施設を拠点とした読書ボランティア	（団体）	図書館	7	7
19		（人）		70	100
20		（団体）	公民館	3	3
21		（人）		29	30

第5章 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画における具体的取組

基本方針と重点事項を踏まえ、計画目標達成のための具体的取組は、次のとおりとします。なお、今後、計画の進捗管理を行いながら、必要に応じて具体的取組の追加・見直しを行っていくものとします。

1 子どもが読書に親しむ機会の提供〔基本方針(1)〕

(1) 発達段階に応じた取組

ア 生まれる前

子どもが生まれる前から、家庭内で、読書に対する意識を醸成し、生まれてからの読み聞かせにつなげるため、また、出産を迎えるまでの親子の心の安定を図るうえでも、読み聞かせの大切さや意義等をまとめたリーフレットを作成し、意識啓発を行います。

主体	事業名	事業内容	関連指標 No.
家庭	・啓発リーフレット「もうすぐ会える赤ちゃんへ 絵本のよみきかせをしませんか？」等の活用 ・ブックガイド等を活用した絵本の選書	・赤ちゃんへの読み聞かせの効果を知る。 ・絵本を選んだり、読み聞かせの練習をしたりして、自らが本に親しむ。 ・本を読んでリラックスし、生まれてくる子どもへの愛情を深める。	1
行政	・パパ・ママ教室、母子健康手帳交付時における周知	・啓発リーフレット「もうすぐ会える赤ちゃんへ 絵本のよみきかせをしませんか？」及び「盛岡市の読み聞かせ事業」を配布し、生まれる前からの読み聞かせの効果や子育てに関する情報の窓口、図書館等で実施している読み聞かせ事業等を周知する。	1

イ 乳幼児期

この時期は、周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて絵本や物語に興味を示すようになることから、様々な本と出会う機会を提供します。

主体	事業名	事業内容	関連指標 No
子ども	- 絵本に興味をもつ - お気に入りの本を見つける	絵本や物語に興味を示すようになるとともに、様々な本と出会う。	—
家庭	- 啓発リーフレット「0歳からはじめよう 絵本のよみきかせ」や「絵本だあいすき！」の活用 - 良書の選択	0歳からはじめる絵本の読み聞かせの効果や方法、盛岡市の図書館情報などを知り、親子のコミュニケーションを深めるための手立ての一つとして読書に親しむ。 - ブックガイド等を活用して、年齢や読書経験に応じた絵本を選択する。	1
行政	新生児訪問時の周知	母子健康課と連携し、新生児訪問時等に啓発リーフレット「0歳からはじめよう 絵本のよみきかせ」を配布し、家庭への啓もうを図る。	1
	保育所等での読書活動の推進	保育所等と連携し、絵本の読み聞かせや絵本コーナーの設置、園だより等の発行などで、家庭への啓もうを図る。	1
	離乳食教室（4か月児）での周知	図書館や公民館、地域文庫等で開催する読み聞かせ関連事業を掲載したリーフレット「盛岡市の読み聞かせ事業」を配布し、読書に親しむ機会を周知する。	1
	1歳6か月児健診での絵本の読み聞かせ事業	- 母子健康課と連携し、1歳6か月児健診時に、図書館が登録している読み聞かせボランティアによる読み聞かせや手遊び等を実施し、読書への興味関心を高める。 - 絵本サークルと連携し、絵本への親しみをもたせるための冊子「絵本だあいすき！」を作成し、1歳6か月児健診時に配布する。	1
	幼児健診での絵本の配置	幼児健診の待ち時間に、親子で自由に手に取れるよう絵本を配置する。	1

ウ 小学生

小学校低学年では、読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになります。

中学年では、最後まで本を読み通すことができる子どもと、そうでない子どもの違いが現れ始めます。読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになってくるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになります。

高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、読書の幅が広がらなくなったりする子どもが出てくる場合があります。こうした学年による読書に関する発達の特徴に留意しながら、効果的な取組を推進していきます。

主体	事業名	事業内容	関連指標 No
子ども	- 子ども同士の読書活動 - 様々なジャンルの読書活動 - 読み聞かせ活動に参加 - 積極的な図書委員活動	- 子ども同士で図書紹介など多様な読書活動を行う。 - 様々な本と出会う。 - 地域や学校における読み聞かせ活動に参加し、読書に親しむ。 - 学校での図書委員活動などに積極的に参加する。	2 3 4
家庭	うちどく ・家読の取組	- 家族で一冊の本をみんなで読んだり、一斉に読書の時間を設けたりするなど、家族で読書の時間を共有する。 - 親子で図書館を利用する。	2 3 4
地域	読書ボランティア団体による学校での読書活動への支援	学校の要請に応じ、学校図書ボランティアや地域文庫等と連携しながら、学校での読み聞かせ活動や学校図書室等の環境整備活動に参加する。	5
学校	朝読書や一斉読書の実施	学校生活の中で、「朝読書」や「読書の時間」、「読書の日」など、全員が読書に取り組む時間を設定することにより、読書習慣の定着を図る。	2 3 4
	学校図書館の活用及び学校図書館ボランティアとの連携	学校図書館ボランティアや読書推進に関わるPTA 専門部等と連携し、学校図書館の充実を図る。	5

主体	事業名	事業内容	関連指標 No
学校	・図書館や公民館図書室、地域文庫等の活用促進	・読書活動に関わる施設等の取組や利用方法などを紹介し、施設使用の促進を図る。	13
	・読書への関心を高め、読書習慣を継続するための取組の実施（新規）	・学年の発達段階を考慮しながら、読書ボランティア団体と連携し、読み聞かせや、ストーリーテリング、ブックトークを実施したり、適した本を紹介したりしながら、読書の幅を広げさせる。	2 3 4
行政	・学校司書の配置	・学校司書を配置し、学校図書館の活用促進を図りながら、担当教員や子どもたちによる委員会活動等の支援にあたらせる。	2 3 4
	・先人教育に関連した「一筆啓上」事業の実施	・「盛岡の先人教育」の一環として、市内小中学校と連携し、「盛岡の先人」に関わる親子読書や感想交流を進める。	2 3 4

エ 中学生・高校生

中学生は、多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになります。また、自己の将来についても考え始め、読書を将来に役立てようとするようになります。

高校生は、読書の目的や資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになります。

中・高校生は、それまでに身につけた読書習慣を継続させ、さらに読書への関心度合を高めるような取組を進めます。

主体	事業名	事業内容	関連指標 No
子ども	・様々なジャンルの読書活動 ・読み聞かせ活動に参加	・興味や関心があるジャンルや作家、筆者についての読書を行うなど、読書への関心を高める。 ・地域や学校における読み聞かせ活動に参加し、読書に親しむ。	6 10 7 11 8 12
家庭	・ ^{うちどく} 家読の取組	・中高生の将来への期待や知的興味関心にふれるように、話題となっている本や作家、読んだ本等について話題にしながらコミュニケーションを深める。	6 10 7 11 8 12
地域	・読書ボランティア団体による学校での	・学校の要請に応じ、学校図書ボランティアや地域文庫等と連携しながら、学校での読	5

主体	事業名	事業内容	関連指標 No
地域	読書活動への支援	み聞かせ活動や学校図書室等の環境整備活動に参加する。	
学校	・朝読書や一斉読書の実施（再掲）	・学校生活の中で、「朝読書」や「読書の時間」、「読書の日」など、全員が読書に取り組む時間を設定することにより、読書習慣の定着を図る。	6 10 7 11 8 12
	・学校図書館の活用及び学校図書館ボランティアとの連携	・学校図書館ボランティアや学校司書と連携し、新刊紹介や内外の掲示、配架やレイアウトの工夫など、学校図書館の環境整備を工夫する。 ・学習情報センターとしての機能を整備する。 ・子どもの希望を反映させながら図書資料の購入を工夫する。	9
	・図書館や公民館図書室、地域文庫等の活用促進	・読書活動に関わる施設等の取組や利用方法などを紹介し、施設使用の促進を図る。	13
	・読書への関心を高め、読書習慣を継続するための取組（新規）	・司書教諭など教職員による図書の紹介や委員会活動によるおすすめ本の紹介などを行う。 ・多様な読書活動の推進を図るため、子ども同士が相互に図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動、読書会、ペア読書、お話（ストーリーテリング）、ブックトーク、アニメーション、書評合戦（ビブリオバトル）等、子どもが自主的に自由な読書を楽しみながら読書習慣を確立し、更に読書の幅を広げるとともに、同世代に読書を広めていく取組の実施を促していく。	6 10 7 11 8 12
行政	・学校司書の配置	・中学校においては、学校司書を配置し、学校図書館の活用促進を図りながら、担当教員や子どもたちによる委員会活動等の支援にあたらせる。	6 7 8
	・先人教育に関連した「一筆啓上」事業の実施（再掲）	・「盛岡の先人教育」の一環として、市内小中学校と連携し、「盛岡の先人」に関わる親子読書や感想交流を進める。	6 7 8

2 子どもの読書環境の整備〔基本方針(2)〕

(1) 公立図書館の役割

公立図書館は、図書館法や「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に基づき、地域における子どもの読書活動の推進について、中心的な役割を果たすよう取り組みます。

公立図書館は、豊富な蔵書の中から誰もが読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所として位置づけられます。たとえ、図書館に直接足を運ぶことができない幼児や小学生であっても、保護者が子どもに読ませたい本を選択したり、読書について司書に相談したりすることで、読書に親しむことができる場所と考えることもできます。

また、公立図書館は、読み聞かせ会や講座、季節や社会情勢に応じた展示会等を実施するほか、子どもの読書活動を推進する団体の支援やボランティア活動等の機会・場所の提供、研修会等も行っており、地域においても子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を果たしています。

(2) 公立図書館の取組

ア 図書館の整備

子どもが読書活動をより身近に感じられる環境を整備するため、読書に関するニーズを的確に把握し、子ども向けの読書に関する積極的な情報提供や魅力ある児童図書の配架など、子どもだけではなく、保護者も図書館を利用したくなるような図書資料の整備を進めます。また、課題となっている図書の貸出冊数の減少に関する要因を分析するなど、来館の動機づけとなる事業を検討し取組を推進するほか移動図書館車の活用など、より多くの子どもに読書の機会を提供します。

「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」に基づき、図書館施設の耐震化、バリアフリー化を進め、誰もが安心して利用できる施設を目指します。

イ 読書への関心を高め、継続するための取組

図書館が所蔵する児童・青少年用図書等に関する情報や読み聞かせ会の開催、子どもの読書活動の機会に関する情報、中高生に向けた図書館利用案内等を積極的に子どもや保護者に提供したり、ヤングアダルトコーナーの設置・充実や職場体験・インターンシップの受け入れを通じて、中学生や高校生が図書館を身近に感じる機会を増やし、気軽に図書館に足を運び、本を借りたり、生涯にわたる読書習慣を身につけたりできるように工夫します。

その際には、図書館のホームページや、ソーシャルメディア等を活用し、図書館が発信する情報へのアクセスの機会を増やし、より多く子どもや保護者が気軽に読書に触れることが出来るように努めます。

また、ストーリーテリング、ブックトーク、子どもによる選書など子ども同士による活動が行えるような情報や機会を提供します。

ウ 学校との連携

小中高生のニーズを把握しながら蔵書を充実させ、積極的に学校への団体貸出や情報提供を進めます。

また、レファレンスサービスや来館した子どもへの学習活動支援を進め、学校の中だけでなく、学校の外でも読書をしたり学習したりする環境を整えます。

さらに、子どもの自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実させられるよう、学校や学校図書館ボランティアと連携し、イベントや自主企画を支援します。

エ 情報化の推進

図書館における子どもの読書活動をより充実したものとし、図書館の利用機会をより多く提供するため、コンピューターやインターネット等の普及に対応した取組を進めるとともに、新しい生活様式に沿った事業の在り方の検討を行います。

また、電子書籍の活用に関する調査・研究を進め、導入に向けた方策を検討します。

オ ボランティア活動の促進

図書館におけるボランティア活動は、子どもの読書活動推進に大きな役割を果たしており、専門知識を持つ方や地域の方等、多様な人々の参画を得て、子どもの読書活動を継続的に支えることが必要となります。そのためにも、図書館は、ボランティアの活動の機会と場を提供するほか、より一層の啓発活動を行い、新規に活動するボランティアの養成や研修を実施します。

カ 障がいのある子どものための諸条件の整備・充実

障がいのある子どもに対するサービスとして、点字資料、大活字本、録音資料、手話や字幕入りの映像資料等の整備・提供、手話、筆談等によるコミュニケーションの確保、図書館利用の際の介助、図書館資料等の代読サービスの実施等に努めます。

(3) 学校図書館の役割

学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、児童生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。学校図書館には、子どもの読書活動推進における重要な役割を有するとともに、様々な学習・指導場面での利活用を通じた、子どもたちの言語能力、情報活用能力、問題解決能力批判的吟味力等の育成を支え主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を効果的に進める基盤としての役割が期待されています。

(4) 学校図書館の取組

学校図書館の運営について、学校司書の配置を行うとともに、PTA組織や保護者・地域住民等で組織する読書に関わるボランティア団体との連携により、より一層、児童・生徒の学校図書館利用を促進する取組を実施します。

国の調査*によると、学校図書館がいつでも自由に利用できる場合、そのほかの場合と比べて、本を読んだ子どもの割合が多いという傾向も明らかになっています。読書習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っており、全ての子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるよう、子どもの読書環境を整備します。

*国が行った調査：子どもの読書活動の推進等に関する調査研究（平成28・30年度）

3 家庭、地域、学校、行政の連携した取組の推進〔基本方針(3)〕

(1) 家庭、地域、学校、行政の連携した取組

盛岡市教育振興運動第12次5か年計画では、運動の重点として読書活動の習慣化を掲げ、目指す子どもの姿として、子どもがじっくりと読書や学習に取り組む中で、幅広く読書活動を楽しむことをあげています。

子どもの読書環境の整備を推進するためには、家庭、地域、学校、行政がそれぞれの役割を明らかにし、相互に理解した上で、子どもの発達段階に応じ、また、日常生活、学校、地域など、様々な場面で連携した取組を実施することが必要となります。

ア 家庭

(ア) 家庭の役割

子どもにとって最も身近な家庭の役割は、子どもの読書活動に大きな影響を与えます。保護者が日常生活の中で、子ども一人一人の成長や発達段階に応じた読書活動を促し、子どもが生まれる前から中学、高校に至るまで、継続して読書に関する働きかけを行うことによって、自然に子どもが読書に関心をもつようになり、読書習慣を身につけていきます。

国が行った調査*によると、未就学児の頃に読み聞かせをしていた家庭の子どもでは、その他の子どもに比べて、本を読まない子どもの割合が少ないことが分かっています。なお、未就学児の頃から、小学校低学年、中高学年へと学年が上がるにつれて家庭での読み聞かせの割合は減っていきませんが、高学年まで読み聞かせをしていた子どもほど、本を読まない子どもの割合が少ないことも分かっています。

また、小学生が本を読むようになったきっかけは、家庭において、「家族と一緒に本を読んだり図書館や本屋に連れて行ってくれたりすること」や「家の中で手にとりやすいところに本が置かれていること」という回答が高い割合になっています。

これらのことから、家族の読書に対する態度や関わりが、子どもの読書習慣の形成に影響を与えていると考えられ、家庭には、子どもが様々な本に触れ、読書に親しむきっかけをつくるという役割が期待されます。

*国が行った調査：子どもの読書活動の推進等に関する調査研究（平成28・30年度）

(イ) 家庭における取組

主な取組	取組内容	関連指標 No
・本とのふれあい	・子どもが生まれる前から、本を読んでリラックスし、親になる準備をする。 ・絵本を選んで読み聞かせの練習をしたりして、本に親しむ。	1

主な取組	取組内容	関連指標 No
・ うちどく 家読のすすめ	- 絵本の読み聞かせやわらべ歌をうたうなど、親子の触れ合いの中で、本に親しむ。 - 家族で一冊の本を読んだり、一斉に読書の時間を設けたりするなど、家族で読書の時間を共有する。 - 親子で図書館を利用する。 - 話題となっている本や作家、読んだ本等について話題の共有や交流を行う。	1
		2
		3
		4
		6
		7
		8
		10
		11
		12

イ 地域

(ア) 地域の役割

図書館や地域文庫等は、地域における子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を担っています。子どもが本に親しむきっかけをつくる役割はもちろんのこと、より幅広く多様な取組を推進することが求められます。

地域には、公立図書館をはじめ、ボランティア団体やNPO法人、公民館や児童館など、読書推進に関わるさまざまな施設や団体があり、子どもの読書活動に関する取組が継続的に行われています。

地域にある施設や団体は、子どもの生活圏内にあり、繰り返し訪れることが可能で、保護者と子どもが普段から気軽に立ち寄りやすく、多様で利用しやすい読書環境の場を提供するという役割が期待されます。

また、子どもが、家庭から外に出て、多くの人と関わりながら、多様な読書活動を経験することは、読書に対する関心が広がるとともに、関心が長く継続することにもつながります。

図書館は、他の図書館や学校図書館との連携・協力体制を強化し、団体貸出や相互貸借等の取組を行うとともに、移動図書館等の機能を充実し、多くの子どもたちに本を届ける仕組みを工夫する必要があります。

(イ) 地域における取組

主な取組	取組内容	関連指標 No
・公立図書館や公民館図書室等における読書活動	- 所蔵する児童・青少年用図書等に関する情報や読み聞かせ会などの子どもの読書活動の機会に関する情報をホームページやチラシなどで提供する。 - 中高生に向けた図書館利用案内等を、学校と連携して積極的に子どもや保護者に提供する。 - ヤングアダルトコーナーの設置・充実や職場体験・インターンシップの受け入れを通じて、中学	13
		14
		15
		16
		17
		18
		19
		20

・ 公立図書館や公民館図書室等における読書活動	生や高校生が図書館を身近に感じる機会を増やす。 ・ ホームページの充実や、ソーシャルメディア等の活用など、新たな情報通信手段を活用し、中高生のアクセスの機会を増やす。 ・ ストーリーテリングやブックトーク、子どもによる選書など、子ども同士による読書活動の普及を目指し、情報提供や研修機会の提供に努める。 ・ 小中高生のニーズを把握し、積極的に学校への団体貸出や情報提供に努める。 ・ 中高校生向けのレファレンスサービスや学習活動支援を進め、学校の中だけでなく、学校の外でも読書したり学習したりできる環境を整える。 ・ 学校や学校図書館ボランティアと連携し、読書に関するイベントや自主企画を支援する。 ・ 読書ボランティアの活動の機会と場を提供するほか、ボランティアの養成やスキルアップの機会を設ける。 ・ 「子ども読書の日」（４月２３日）を中心とした読書啓発を実施する。	21
・ 地域文庫等における読書活動	・ 多様なジャンルの本を収蔵している地域の図書館等の利点を生かし、読み聞かせやわらべ歌、ストーリーテリング等、子どもの読書の幅を広げるような取組を実施する。	2 6 3 7 4 8
・ 読書ボランティア団体による支援	・ 地域にある学校の学校図書館ボランティアなどを支援し、学校で読み聞かせ会を開いたり、学校図書館の環境整備について助言したりする。 ・ 地域で開設している放課後子ども教室等で読書ボランティア団体による読み聞かせなどを行う。 ・ 地域にある保育所等教育保育施設の要望に応じ、読書ボランティア団体による読み聞かせなどを行う。	5 9
・ PTA 等による支援	・ PTA 主催の家庭教育学級や専門部組織による研修会等で、子どもの読書習慣の定着や読み聞かせの意義などに関する内容を取り入れ、保護者への啓もうを図る。	5 9

ウ 学校

(ア) 学校の役割

学校は、全ての子どもの読書活動を支援し、読書指導を充実することにより、子どもの読書量を増やすことのみならず、読書の質も高めていくことが求められます。

特に、中学、高校と年齢が上がるにつれて、読書冊数の減少及び不読率の上昇が課題となっている中で、学校の役割は、より一層重要となってきます。

また、新しい学校指導要領では、言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、言語活動を充実することや、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、子どもの自主的、自発的な読書活動を充実することが規定されています。

現在も、国語科をはじめとする各教科の学習や、総合的な学習の時間における調べ学習等で、読書活動を行っているほか、教科等以外でも、朝読書など全校一斉の取組が多く、多くの学校で実施されています。このような取組が、不読率の改善という観点から効果的であると考えられ、高等学校等における自主性を尊重した取組と合わせ、より一層の取組の推進が必要です。

(イ) 学校における取組

主な取組	取組内容	関連指標 No
・朝読書や一斉読書の実施	・読書に取り組む時間を設けることにより、読書習慣の定着を図る。	2 10 3 11 4 12 6 7 8
・学校図書館の活用及び学校図書館ボランティアとの連携	・学校図書館ボランティアと連携し、学校図書館の充実と活用促進を図る。	5 9
・地域の図書館等の活用促進	・多様なジャンルの本を収蔵している地域の図書館等の活用を促し、子どもの読書の幅を広げさせる。	13

主な取組	取組内容	関連指 標 No
子ども同士の取組の推進 *それぞれの取組については第8章の資料を参照のこと	子どもが相互に図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動、読書会、ペア読書、ストーリーテリング、ブックトーク、アニマシオン、ビブリオバトル等、子どもが自主的に自由な読書を楽しみながら読書習慣を確立し、さらに読書の幅を広げるとともに、同世代に読書を広めていく取組の実施を促す。	2 10 3 11 4 12 6 7 8
障がいのある子どもの読書活動	全ての学校において、障がいのある子どもも豊かな読書活動を体験できるよう、点字図書や音声図書など、一人一人の教育的ニーズに応じた様々な図書館資料の整備を図る。	2 10 3 11 4 12 6 7 8

エ 行政

(ア) 行政の役割

子どもの読書活動を推進するためには、家庭や地域、学校、行政が連携し、一体となって、切れ目なく横断的な取組を推進する必要があります。そのためには、行政が主体となり、それぞれの取組を結び付けられるような体制の整備が必要です。また、行政の中でも、教育委員会だけではなく、子育て支援担当部局等とも連携して取り組みます。

なお、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画に沿って、障がいの有無に関わらず、子どもが豊かな読書活動ができるよう、環境を整える役割も求められます。

(イ) 行政における取組

主な取組	取組内容	関連指標 No
・母子健康手帳交付時や新生児訪問、離乳食教室、1.6か月健診等での周知や働きかけ	・母子健康手帳交付時に、パパママよみきかせリーフレット「もうすぐ会える赤ちゃんへ絵本のよみきかせをしませんか」を配布する。 ・新生児訪問時に、「0歳からはじめよう 絵本のよみきかせ」を配布する。 ・離乳食教室（4か月児）で、図書館等で開催する読み聞かせ関連事業を掲載した「読み聞かせ事業リーフレット」を配布する。 ・1歳6か月児健診時に、読み聞かせボランティアによる読み聞かせや手遊び等を実施するとともに、絵本読本「絵本だあいすき！」を配布する。 ・以上のような取組を関係部署等と連携しながら推進し、生まれる前から就学前までの読み聞かせの必要性や読み聞かせ事業の周知を図る。	1
・読書ボランティアのスキルアップと新たなボランティアの養成	・読書ボランティアとして既に活動している方、読み聞かせに興味関心がある方など、対象者別に研修の機会を提供し、読書ボランティアのスキルアップと新規のボランティアの養成を図る。	18 19 20 21
・図書館や公民館等を拠点とした読み聞かせ事業の開催	・図書館や公民館等で、読み聞かせやストーリーテリング、朗読会、手遊び、わらべ歌などを取り入れた事業を開催し、本に親しんでもらったり、親子のコミュニケーションを深めてもらったりする。	18 19 20 21

主な取組	取組内容	関連指標 No
・読書ボランティアデータベースの作成	・読書ボランティア団体のデータベースを市ホームページに掲載し、市民からの問い合わせに対応する。	18 19 20 21
・家庭教育支援講座の開催	・家庭教育支援の一環として、講座を開催し、読み聞かせの必要性や絵本の選び方等を理解してもらう。	1
・家庭教育情報紙「はぐ便り」の発行	・読み聞かせの必要性に関する情報や読書をテーマにした話題を提供し、読書への関心を高める。	1 2 6
・学校司書の配置	・小中学校に図書館担当の職員「学校司書」を配置し、学校図書館の一層の活用等により、読書習慣の定着、図書担当教員のサポート機能の強化などを図る。	2 6 3 7 4 8
・先人教育に関連した「一筆啓上」の実施	・盛岡の先人教育の一環として、「盛岡の先人」に関わる親子読書、感想交流を進める。	2 6 3 7 4 8
・学校図書館ボランティア研修会の開催	・学校図書館ボランティアとして活動している人を対象に研修会を実施し、スキルアップを図る。	5 9
・調査・研究	・行政として、アンテナを高く持ち、時代の変化を捉え、スマートフォンなど情報通信手段の多様化と読書の関係など、国及び県の実態調査や分析を活用するとともに、多様なニーズに対応していくよう市としても実態調査・研究を行い、読書活動の取組を推進する。	—
・民間企業（書店等）との連携	・読書推進に関する講座や研修会等において、児童書の選書やお話会など、民間企業（書店等）と連携した取組を実施する。	5 14 9 15 16 17

第6章 第3次もりおか子どもの読書活動推進計画における推進体制

本計画に基づいて、効果的・実践的な取組が、適時適切に行われることが重要です。そのためには、教育委員会のみならず子どもの読書推進に関わる全ての部局や学校、図書館、公民館等の関係者が連携、協力し、横断的な取組が必要となります。

また、本計画で定められた成果指標をベースとしながら、定期的に取り組の効果について点検及び評価を行い、計画を推進するとともに、必要に応じ計画の見直しを行うこととします。

そのためには、子どもの読書活動の推進に関わる情報共有を図る体制を整備し、定期的に関係者で取組状況を確認・点検し、計画目標達成に向け取組推進していきます。

1 関係課等会議における計画の進捗管理

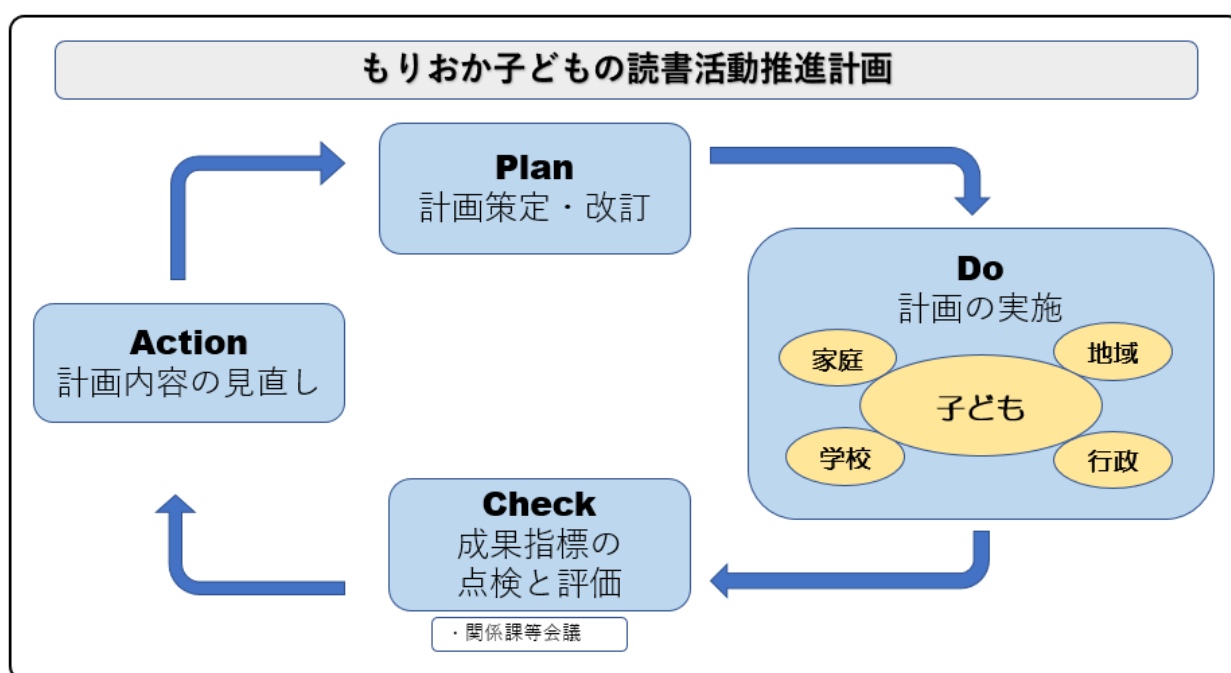
第3次もりおか子どもの読書活動推進計画に関わる部署や学校、図書館、公民館等の関係課で組織する会議を定期的に開催し、取組の進捗状況の確認や今後の方向性等についての意見交換や共通理解を図り、進捗管理を行います。

*関係課等会議（令和3年度時点）

子育てあんしん課，母子健康課，健康福祉課，学校教育課，中央公民館，市立図書館，都南図書館，渋民図書館，生涯学習課

2 市社会教育委員会における意見聴取

市社会教育委員会において、推進計画に示された取組や成果指標等の年次推移等の資料を提供するとともに、必要に応じて、新たな推進計画策定における子どもの読書活動推進に係る意見聴取を行います。



第7章 資料編

1 乳幼児に関連する情報

(1) 1歳6か月児健診における「読み聞かせボランティア」登録者数

	H28	H29	H30	R1	R2
実績（人）	43	36	32	31	32

(2) 「読み聞かせボランティア等研修会」参加者数

	H28	H29	H30	R1	R2
実績（人）	42	64	27	不開催	31

(3) 1歳6か月児健診の実施状況（絵本の読み聞かせ事業参加状況）

	H28	H29	H30	R1	R2
対象児数（人）	2,354	2,342	2,153	1,973	0
受診児数（人）	2,323	2,325	2,100	1,908	0
受診率（％）	98.7	99.3	97.5	96.7	0

(4) 1歳6か月児健診における絵本の読み聞かせ事業参加者アンケートの結果（概ね3か月間における健診受診者に対し、自記式アンケートを実施）

※R2は新型コロナウイルス感染防止のため、絵本の読み聞かせ事業を実施しなかった。

ア お子さんの反応はいかがでしたか。

	楽しそうだった（％）	やや楽しそうだった（％）	普通（％）	ややあきた（％）	あきた（％）	その他（％）	回答なし（％）
H28	43.1	23.4	14.2	2.2	1.7	2.7	12.8
H29	48.5	27.4	17.0	1.8	0.2	3.6	1.4
H30	50.5	25.8	16.1	2.6	0.9	3.7	0.4
R1	42.5	30.6	13.7	2.8	0.9	3.9	5.5
R2	—	—	—	—	—	—	—

イ お父さん、お母さんの気持ちはどうでしたか。

	家でも行ってみたいと思った（％）	気持ちがリラックスした（％）	楽しめた（％）	いろんな種類をやってほしい（％）	早く終わって欲しかった（％）	必要ないと思った（％）	その他（％）
H28	44.8	12.8	44.8	8.4	0.5	0.2	1.4
H29	52.4	20.4	47.2	8.8	0.2	0.2	2.0
H30	58.1	15.0	49.0	8.0	0.4	0.9	0.9
R1	47.4	17.1	51.1	9.2	0.4	1.3	0.9
R2	—	—	—	—	—	—	—

ウ お子さんに本を読んであげていますか。

	毎日 (%)	週2～3回程度 (%)	週1回程度 (%)	月1回程度 (%)	これから行いたい (%)	その他 (%)	回答なし (%)
H28	43.4	27.2	8.7	2.7	5.8	1.2	11.1
H29	47.6	30.6	10.9	1.8	6.1	1.8	1.1
H30	43.0	31.5	13.9	3.3	7.4	1.1	0.0
R1	46.2	30.3	10.0	3.2	4.9	1.1	4.3
R2	—	—	—	—	—	—	—

2 小学生・中学生・高校生に関連する情報

(1) 県及び市内児童・生徒の1か月の平均読書冊数

		H28	H29	H30	R1	R2
小学5年生 (冊)	盛岡	14.0	16.4	15.6	17.1	17.6
	県	13.4	16.4	16.2	16.8	18.0
中学2年生 (冊)	盛岡	3.6	4.3	3.9	4.8	4.9
	県	4.2	4.5	4.8	4.9	5.1
高校2年生 (冊)	県	2.4	2.4	2.2	2.4	2.5

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

(2) 県及び市内児童・生徒の1か月で1冊以上本を読んだ児童生徒の割合

		H28	H29	H30	R1	R2
小学5年生 (%)	盛岡	99.5	99.1	99.1	97.4	99.9
	県	99.0	99.5	99.2	99.0	99.6
中学2年生 (%)	盛岡	86.6	93.0	94.3	96.0	97.2
	県	93.0	94.8	95.0	96.2	95.8
高校2年生 (%)	県	72.8	77.9	77.0	84.4	81.5

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

(3) 県及び市内児童・生徒の1か月で1冊も本を読まなかった児童生徒の割合

		H28	H29	H30	R1	R2
小学5年生 (%)	盛岡	0.5	0.9	0.9	2.6	0.1
	県	1.0	0.5	0.8	1.0	0.4
中学2年生 (%)	盛岡	13.4	7.0	5.7	4.0	2.8
	県	7.0	5.2	5.0	3.8	4.2
高校2年生 (%)	県	27.2	22.1	23.0	15.6	18.5

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

(4) 1 か月で 1 冊も本を読まなかった児童生徒が、本を読まなかった理由ごとの割合

小学5年生		読みたい本が見当たらない	勉強が忙しい	スポ少・部活動が忙しい	趣味・付き合いが忙しい	読まなくても不便はない
H28	盛岡 (%)	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
	県 (%)	55.0	5.0	12.0	11.0	17.0
H29	盛岡 (%)	63.6	9.1	9.1	9.1	9.1
	県 (%)	64.0	6.0	15.0	6.0	9.0
H30	盛岡 (%)	77.8	11.1	0.0	0.0	11.1
	県 (%)	51.0	7.0	20.0	4.0	18.0

中学2年生		読みたい本が見当たらない	勉強が忙しい	スポ少・部活動が忙しい	趣味・付き合いが忙しい	読まなくても不便はない
H28	盛岡 (%)	27.9	11.6	26.7	14.0	19.8
	県 (%)	32.0	9.0	22.0	11.0	26.0
H29	盛岡 (%)	30.2	14.0	18.6	16.3	20.9
	県 (%)	34.0	7.0	26.0	9.0	24.0
H30	盛岡 (%)	25.0	5.6	36.1	11.1	22.2
	県 (%)	34.0	4.0	23.0	10.0	29.0

高校2年生		読みたい本が見当たらない	勉強が忙しい	スポ少・部活動が忙しい	趣味・付き合いが忙しい	読まなくても不便はない
H28	県 (%)	29.0	16.0	26.0	11.0	18.0
H29	県 (%)	26.0	16.0	26.0	13.0	19.0
H30	県 (%)	28.0	17.0	24.0	16.0	15.0

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

※ R1 年度以降は本質問なし。

※ 高校2年生については県のみ。

(5) 読書に対する意識ごとの割合 (※ H30 年度から回答項目が変更。)

ア H28 年度～H29 年度

小学5年生		とても大切だと思う	ある程度大切だと思う	あまり大切だとは思わない	全く大切だとは思わない
H28	盛岡 (%)	62.9	32.5	3.4	1.2
	県 (%)	58.0	36.0	5.0	1.0
H29	盛岡 (%)	58.6	35.6	5.0	0.8
	県 (%)	58.0	36.0	5.0	1.0

中学2年生		とても大切だと思う	ある程度大切だと思う	あまり大切だとは思わない	全く大切だとは思わない
H28	盛岡 (%)	50.3	39.4	7.8	2.5
	県 (%)	51.0	40.0	7.0	2.0
H29	盛岡 (%)	50.9	41.4	6.4	1.0
	県 (%)	58.0	36.0	5.0	1.0

高校2年生		とても大切だと思う	ある程度大切だと思う	あまり大切だとは思わない	全く大切だとは思わない
H28	県 (%)	48.0	45.0	5.0	2.0
H29	県 (%)	44.0	48.0	6.0	2.0

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

イ H30 年度～R2 年度

小学5年生		とても楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	まったく楽しくない
H30	盛岡 (%)	48.1	41.3	7.7	2.9
	県 (%)	45.0	43.0	9.0	3.0
R1	盛岡 (%)	47.4	42.0	7.7	2.9
	県 (%)	46.0	43.0	8.0	3.0
R2	盛岡 (%)	45.5	44.6	6.9	3.0
	県 (%)	46.0	43.0	8.0	3.0

中学2年生		とても楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	まったく楽しくない
H30	盛岡 (%)	37.8	44.1	13.8	4.3
	県 (%)	42.0	42.0	12.0	4.0
R1	盛岡 (%)	41.8	41.4	10.2	6.7
	県 (%)	39.0	45.0	11.0	5.0
R2	盛岡 (%)	40.1	43.8	10.7	5.4
	県 (%)	40.0	44.0	11.0	5.0

高校2年生		とても楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという 楽しくない	まったく楽しくない
H30	県 (%)	38.0	46.0	12.0	4.0
R1	県 (%)	41.0	45.0	10.0	4.0
R2	県 (%)	39.0	46.0	11.0	4.0

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

※ 高校2年生については県のみ。

(6) 本を選んだ理由 (※ R 1 年度からの新規項目)

小学5年生		本を読むことが好きだから	自分にとって役に立つから	気分をかえたり、リラックスしたりできるから	家族や友達、先生などからすすめられたから	その他
R1	盛岡 (%)	32.2	15.9	30.7	5.9	15.4
	県 (%)	31.0	14.0	30.0	7.0	18.0
R2	盛岡 (%)	21.8	8.8	22.4	38.1	8.9
	県 (%)	23.0	11.0	20.0	37.0	9.0

中学2年生		本を読むことが好きだから	自分にとって役に立つから	気分をかえたり、リラックスしたりできるから	家族や友達、先生などからすすめられたから	その他
R1	盛岡(%)	28.9	8.4	24.1	9.7	28.9
	県(%)	30.0	10.0	26.0	8.0	26.0
R2	盛岡(%)	21.8	8.1	13.8	40.1	16.2
	県(%)	20.0	7.0	14.0	44.0	15.0

高校2年生		本を読むことが好きだから	自分にとって役に立つから	気分をかえたり、リラックスしたりできるから	家族や友達、先生などからすすめられたから	その他
R1	県(%)	33.0	13.0	21.0	7.0	26.0
R2	県(%)	20.0	10.0	11.0	47.0	12.0

※ 「子どもの読書活動状況調査」岩手県教育委員会

(7) 各学校における学校図書館図書標準達成状況

⇒文部科学省が定める学校図書館図書標準(学級数ごとの蔵書冊数)を達成している学校数が、全学校数に占める割合

		H27	H28	H29	H30	R1	R2
小学校(%)	盛岡	67.4	67.4	64.3	64.3	66.7	66.7
	県	63.0	—	—	—	—	66.1
	全国	66.4	—	—	—	—	71.2
中学校(%)	盛岡	60.9	60.9	70.8	62.5	62.5	65.2
	県	56.8	—	—	—	—	53.7
	全国	55.3	—	—	—	—	61.1

※ 文部科学省(H29年度から5年に1度の調査に変更)

(8) 学校図書ボランティア活動がある学校の割合(設置率)及び設置校数

		H28	H30	R2
小学校	設置率(%)	89.0	93.0	91.0
	設置校数(校)	40/45	38/41	40/44
中学校	設置率(%)	46.0	50.0	58.0
	設置校数(校)	12/26	12/24	15/26

※ 「学校図書ボランティアに関する実態調査」盛岡市教育委員会(隔年調査)

※ 平成24年度から調査対象に国立・私立を含む。

(9) 学校図書ボランティアの人数

	H28	H30	R2
実績(人)	635	688	611

※ 「学校図書ボランティア」に関する実態調査(盛岡市教育委員会)(隔年調査)

※ 平成24年度から調査対象に国立・私立を含む。

(10) 「学校図書ボランティア等研修会」参加者数の推移

	H28	H29	H30	R1	R2
実績（人）	55	20	45	不開催	15

(11) 学校司書配置校数

	H28	H29	H30	R1	R2
実績（校）	18	20	20	28	29

※ H26 年度までの名称は「読書活動推進員」

3 図書館等に関する情報

(1) 蔵書数

ア 図書館

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
市立 図書館	一般図書(冊)	251,591	252,717	252,522	251,874	242,355
	児童図書(冊)	116,115	114,980	114,324	113,226	113,378
都南 図書館	一般図書(冊)	147,472	148,608	149,607	149,636	147,824
	児童図書(冊)	49,138	48,846	48,189	46,745	44,949
渋民 図書館	一般図書(冊)	63,976	64,553	65,405	66,153	66,796
	児童図書(冊)	15,712	16,146	16,574	16,921	17,314
合計	一般図書(冊)	463,039	465,878	467,534	467,663	456,975
	児童図書(冊)	180,965	179,972	179,087	176,892	175,641

イ 公民館図書室

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
中央 公民館	一般図書(冊)	22,182	23,959	24,010	24,045	22,372
	児童図書(冊)	8,470	8,517	8,518	8,543	8,571
上田 公民館	一般図書(冊)	5,803	5,849	5,891	5,915	5,963
	児童図書(冊)	4,339	4,347	4,361	4,375	4,384
西部 公民館	一般図書(冊)	9,212	9,076	9,151	9,247	9,177
	児童図書(冊)	4,138	4,077	4,112	4,155	4,137
合計	一般図書(冊)	37,197	38,884	39,052	39,207	37,512
	児童図書(冊)	16,947	16,941	16,991	17,073	17,092

(2) 貸出冊数

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
市立 図書館	一般図書(冊)	221,243	196,424	181,224	183,269	180,933
	児童図書(冊)	138,890	114,663	119,380	119,767	108,136
都南 図書館	一般図書(冊)	127,448	124,046	123,717	121,765	110,485
	児童図書(冊)	114,253	116,357	112,644	110,287	100,763
渋民 図書館	一般図書(冊)	25,110	21,306	20,001	18,916	18,895
	児童図書(冊)	15,119	13,428	12,988	14,827	11,163
合計	一般図書(冊)	373,801	341,776	324,942	323,950	310,313
	児童図書(冊)	268,262	244,448	245,012	244,881	220,062

(3) 児童生徒一人当たりの児童図書貸出冊数（児童図書（冊）÷市内の児童生徒数）（※15歳以下）

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
3館合計 児童図書貸出数	（冊）	268,262	244,448	245,012	244,881	220,062
市内児童生徒	（人）	40,154	39,478	38,633	37,915	37,062
一人当貸出冊数	（冊）	6.7	6.2	6.3	6.5	5.9

(4) おはなし会など子どもの読書活動推進を目的とした事業の実施件数及び参加者数

ア 図書館

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
市立 図書館	事業件数（件）	105	111	109	95	43
	参加人数（人）	1,915	2,215	2,003	1,492	469
都南 図書館	事業件数（件）	86	89	94	88	39
	参加人数（人）	2,243	2,140	2,124	1,948	775
渋民 図書館	事業件数（件）	34	38	16	14	14
	参加人数（人）	430	315	122	133	96
合計	事業件数（件）	225	238	219	197	96
	参加人数（人）	4,588	4,670	4,249	3,573	1,340

イ 公民館及び地区公民館図書室

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
公民館	事業件数（件）	105	104	63	55	61
	参加人数（人）	2,004	1,938	1,345	1,312	1,325

(5) 団体貸出冊数（小学校・幼稚園・保育所・認定こども園）

	H28	H29	H30	R1	R2
市立図書館（冊）	14,213	15,094	14,384	14,121	13,003
都南図書館（冊）	5,405	5,072	4,506	5,030	4,809
渋民図書館（冊）	2,980	3,314	2,945	3,000	2,922
合計	22,598	23,480	21,835	22,151	20,734

(6) 各施設を拠点としたボランティア団体数及び人数

ア 図書館

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
市立 図書館	団体数（団体）	3	3	3	3	3
	人数（人）	55	51	51	49	46
都南 図書館	団体数（団体）	2	3	3	3	3
	人数（人）	11	19	17	17	16
渋民 図書館	団体数（団体）	1	1	1	1	1
	人数（人）	8	8	8	8	8
合計	団体数（団体）	6	7	7	7	7
	人数（人）	74	78	76	74	70

イ 公民館及び地区公民館図書室

	区分	H28	H29	H30	R1	R2
公民館	団体数（団体）	3	3	2	2	3
	人数（人）	24	24	21	23	29

※ 団体としての活動がないボランティア有

4 子どもの読書への関心を高める取組

本を紹介したり本についての話合いや批評をしたりする活動は、ゲーム感覚で行えるものもあるほか、「心に残る一冊の本」と出会う読書のきっかけになるとともに、本の理解を深めることにつながる重要なものである。

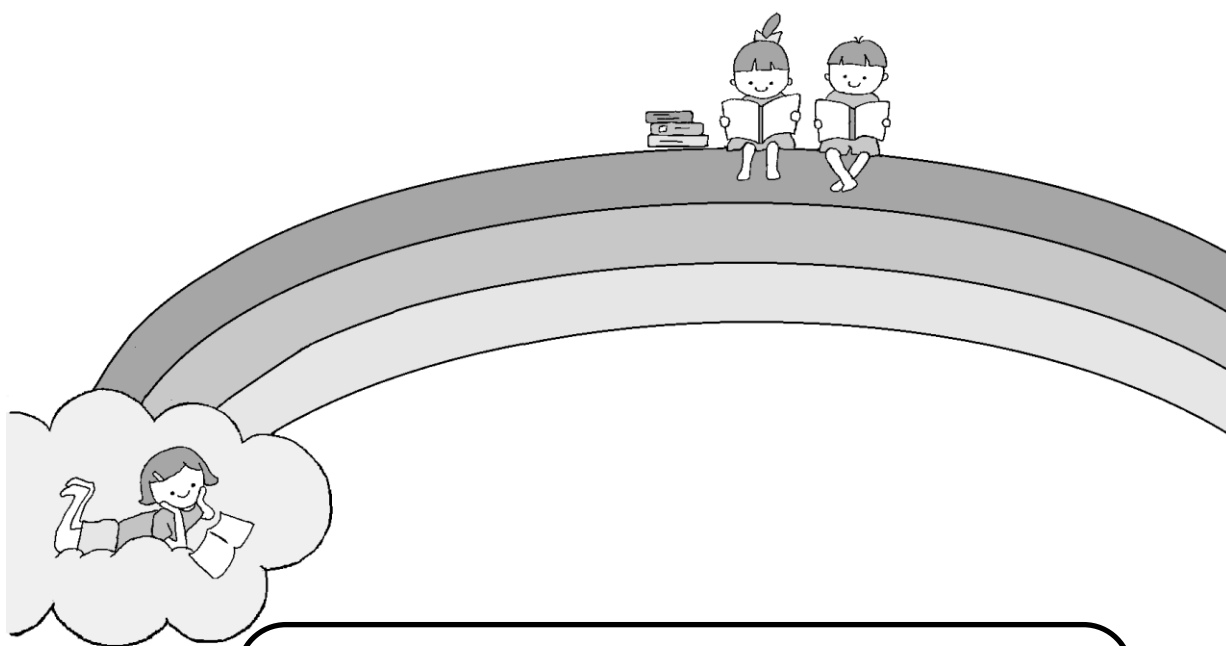
本についての話合いや批評をすることは、読む本の幅を広げるきっかけとなったり、他者の異なる考えを知り、それを受容したり改めて自分自身の考えを見つめ直す経験ができたりするといった点でも有効と考えられる。

また、例えば既に以下のような取組が各地域で行われてきており、このような取組を参考に推進方策を検討することも重要である。

※ 「子どもの読書活動の推進に関する有識者会議 論点まとめ」から引用

(文部科学省 平成 30 年 3 月 20 日)

読書会	数人で集まり、本の感想を話し合う活動である。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる、一冊の本を順番に読むなど様々な方法がある。この取組により、本の新たな魅力に気づき、より深い読書につなげることができる。
ペア読書	二人で読書を行うものであり、家族や他の学年、クラス等様々な単位で一冊の本を読み、感想や意見を交わす活動である。この取組により、読む力に差がある場合も相手を意識し、本を共有することにつなげることができる。
ストーリーテリング	語り手が昔話や創作された物語を全て覚えて自分の言葉で語り聞かせ、聞き手がそれを聞いて想像を膨らませる活動である。直接物語を聞くことで、語り手と聞き手が一体になって楽しむことができる。
ブックトーク	相手に本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、あるテーマに沿って関連付けて、複数の本を紹介すること。テーマから様々なジャンルの本に触れることができる。
アニメーション	読書へのアニメーションとは、子供たちの参加により行われる読書指導のことであり、読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出すために行われる。ゲームや著者訪問等様々な形がある。
ビブリオバトル	発表者が読んで面白いと思った本を一人 5 分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を 2～3 分程度行う。全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動である。ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができる。
図書委員等の活動	子供が図書館や読書活動について学び、お薦め本を選定して紹介したり、同世代の子供を対象とした読書を広める企画を実施したりする活動である。自ら読書に関する理解を深めるとともに、読書活動の推進役となり、同世代の子供の読書のきっかけを作り出すものである。
一冊の本を「〇〇賞」として選ぶ取組	参加者が複数の同じ本を読み、評価の基準も含めて議論を行った上で、一冊のお薦め本を決める活動である。複数の本を読み込み、共通の本について自身の考えで話し合うことで、自分と異なる視点を知り、自身の幅を広げることにつながるものである。
その他	子供の読書への関心を高めたり、読書の幅を広げたりするきっかけとなるよう、例えば、マンガやアニメ・ゲームといった本以外のものの内容や作者に関連した本から紹介することを含め、個人の読書経験や興味関心に寄り添いながら本を紹介する方法も有効と考えられる。



第3次もりおか子どもの読書活動推進計画

令和4年 月

盛岡市教育委員会事務局 生涯学習課
〒020-8532

盛岡市津志田 14 地割 37 番地 2

TEL 019-639-9046 FAX 019-639-1516

E-mail edu.sgs@city.morioka.iwate.jp